

Voice of Design

Vol. 19-2

日本デザイン機構
Japan Institute of Japan

東京都豊島区高田3-30-14山愛ビル2F 〒171-0033
San Ai Bldg. 2F 3-30-14 Takada Toshima-ku Tokyo 171-0033 Japan
Phone: 03-5958-2155 Fax: 03-5958-2156
http://www.voice-of-design.com E-mail:info@voice-of-design.com

特集 1

Voice of Design フォーラム
オピニオンズ
今あらためて問う「デザインとは」



特集 2

Voice of Design トークサロン 6
「今」の共有 小泉和子さんと2時間
知恵のエネルギー、知恵のデザイン
文明度は高くても文化度が低い生活にならないようにするには



目次

- ・特集 1 Voice of Design フォーラム 2
オピニオンズ 今あらためて問う「デザインとは」
アンケート「デザインとは何か」
- ・特集 2 Voice of Design トークサロン 616
シリーズ「今」の共有 小泉和子さんと2時間
「知恵のエネルギー、知恵のデザイン」
文明度は高くても文化度が低い生活にならない
ようにするには
- ・事務局から32

Special Issue
Voice of Design Forum Opinions
Voice of Design Talk Salon 6

Contents

- ・ Special Issue 1 Forum ----- 1
Opinions : Asking anew "what design is"
Questionnaire for JD members -
"What is design"
- ・ Special Issue 2 Talk Salon 6----- 16
Two hours with Ms. Kazuko KOIZUMI
"Energy of Wisdom, Design of Wisdom"
To avoid a highly civilized but culturally poor living
- ・ From the Secretariat----- 32

Special Issue 1 Voice of Design Forum Opinions : Asking anew "what design is"

Opening Address : Masato ISAKA, JD executive director

We are drifting in an age of change without a chart toward an uncertain future. The objects of design and perspectives on design are ever expanding. It is necessary for us now to ask anew "what is design?" or "what are the functions of design?" and to identify "what are our tasks?" and "what is our vision to accomplish these tasks?"

In this meeting, we will listen to views by JD members with various specialties, to confirm the broader meaning and functions of design, so that a surging discussion on design will be stimulated. There will be presentations, comments and a discussion.

Perspective : Holo Design to balance civilization and culture

Seichi MIZUNO, moderator, JD president, president of IMA Co., Ltd.

We have taken up Holo Design as our theme for the past several years. The progress of civilization has caused severe environmental and social problems, and design that can solve

特集 1 Voice of Design フォーラム

オピニオンズ 今あらためて問う「デザインとは」

期日 2013年6月12日（水） 開会 18:00

主催 日本デザイン機構 会場 日仏会館（東京 恵比寿）

開会挨拶

伊坂正人 進行/JD専務理事

日本デザイン機構は、各専門分野のみでは解決不可能な社会の大きな課題をプロジェクト化し、政策の提言、文化事業の展開を目標に出発しました。

大震災、原発事故、グローバルな政治・経済・産業の混乱、そして文化の衝突など、今、私たちは未来が不透明な海図なき時代に漂っています。そしてデザインの対象や立脚点も大きく広がってきています。そうした時代にあって、今あらためて「デザインとは何か」「デザインの役割は何か」を確認し、「今の課題は何か」そして「課題解決のビジョンは何か」を問い直すことが求められています。

この問いに対し、さまざまな専門や立場にいる日本デザイン機構メンバーのオピニオンを発信し、デザインの意味や役割の広がりを確認し、新たな議論のうねりをおこす場としてこのフォーラムを開催します。

このフォーラムでは、多彩な日本デザイン機構メンバーによる連続プレゼンテーションと、それに対するコメントに引き続き討議を行います。

主旨説明

水野誠一 モデレーター/JD理事長、IMA代表取締役

文明と文化のバランスを図るホロデザイン

日本デザイン機構は、さまざまな専門のデザイナー、評論家、学者と多岐にわたる集まりです。デザインを広義にとらえ、社会をデザインする「ソーシャルデザイン」というテーマを掲げスタートしました。近年は、ものごとの一面だけを見てデザインするのではなく、そこから派生するさまざまな矛盾の解決ということも含めたデザインという意味での「ホロデザイン」というテーマを掲げています。今、文明の進化が大きな環境問題や社会問題をつくり出してきており、その矛盾解決のデザインが求められています。その解決には、文明と文化のバランスをとったデザインというものを考える必要が



あります。例えば、環境問題でいえば、経済と環境、つまりエコノミーとエコロジーの両立をはかれるようなデザインを考えていかなければいけない。そうした視点に立って、今日は、あらためて「デザインとは何か」を考えます。



主旨説明 水野誠一



開会挨拶 伊坂正人

the resulting contradictions is required. We need to consider designs that maintain a balance between civilization and culture. For example, to solve an environmental problem, economy and ecology should be compatible in design works. Bearing this perspective in mind, we will consider the question of "what is design?" afresh today.

Presentations

* Synthesizing local efforts

Masakazu TANIGUCHI, president of Japan Life Design Systems Co., Ltd. The society we live in does not function well. In order to solve problems, we need to consider how our future society will be organized. This implies that we consider how to manage or design the future of the global community. Today, more than 70 percent

of the world's population lives in cities. Therefore, the network of cities will be a great factor in considering new social management and social design. Senior citizens occupy greater proportions of the population in cities in mature societies. Populations in many countries are aging faster than we can find solutions to the foreseeable problems. In order to resolve the issues of today and also to build our future societies, communities and individuals should participate with specialists and businesses in efforts to solve the surrounding social problems. Designers should network such social experiment-like movements and lead them toward building a future society deploying the concept of social design.

* Outrageous idea from the accumulated power of design

Kozo YAMADA, president of GK Design Group Inc.

Around 700 million years ago, life was in the sea in the form of

プレゼンター発言

谷口正和 ジャパンライフデザインシステムズ
代表取締役社長

小さな単位での課題解決をつなぐ社会デザイン

今、我々が住んでいる社会そのものが機能しなくなっています。その課題解決には未来社会のあり方を考えなければなりません。未来社会を考えるということは、地球社会をどのように経営しデザインするかということに換言で



きます。今、都市に70%以上の人が集中的に住んでいる。そうした状況では、国単位からむしろ都市と都市のネットワークが、新しい社会経営、社会デザインの大きなファクターとなります。また都市の人口構成も、成熟社会ではシニア社会が課題になっている。そして、そうした課題解決が、まだ明らかにならないままに未来社会がきてしまっています。しかし、今日あらゆる人がこの課題解決に参画をしたいと手を挙げています。限られた専門家とか企業とかを超えて、個人や地域、コミュニティといった小さな単位で参画をしてもらう必要があります。あらゆる人が自分の周辺で社会課題解決に参画し、自分たちで未来社会をつくる。そうしたいわば社会実験のような動き

を一つのリードモデルにして、全体を俯瞰しながらつなぎ、ネットワーク化する。そうした流れをマネージしていく社会デザインによって未来社会を築いていくことがデザインに求められていると考えます。

山田晃三 GKデザイン機構代表取締役社長

「デザインと選択」蓄積されたデザインの力が今、とんでもないテーマを投げかけている

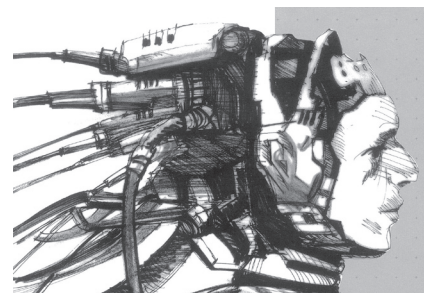
なぜ、私たちがデザインという行為を必要としたのか、その起源を探るところから問題提起したい。およそ7億年前、生命がまだ海の中で単細胞であった時代に、環境変化に対し強い子孫を残す方法として雌雄という生殖法を生み出した。このときから配偶者選択(Mate Choice)という、選び選ばれる生き方が始まった。生命存続の重要なキーワード「選択Choice」の誕生です。一方でまた、環境への適応として自然選択(Natural Choice)も並行して行われた。母なる地球は、長い時間をかけて(天変地異や災害を含めて)この地球上の生命をふるいにかけてきた。その結果、Choiceされたもののみが今この地球上に生きている。生き延びる(Choiceの)ためのノウハウをDesignと呼びたい。このノウハウは今生きている生物の中に内在され、立派に活用されている。問題はここからです。

近年、人類のみが「道具」と称する

人工物をつくり始めた。初めは機械、そして電子、情報さらには生命技術を駆使し、自らの分身をつくりはじめた。こうして誕生する人工頭脳を持った道具たちが、「人よりも優先」されて



選択Choiceされる時代が見えてきました。そう考えたのは「パパよりケイタイのほうが価値がある」と言い放った高校生の娘の言葉がきっかけです。下手をすると人間が道具に淘汰される時代が来るのではないか。未来の問題を考えるということは、私たちがここに存在している意味そのものを素直に考えてみないと答えは見つからない。蓄積されたデザインの力が今、とんでもないテーマを投げかけています。



single-celled organisms. Over time, a process of reproduction developed creating male and female organisms as a means to leave strong descendants able to withstand environmental changes. It was the beginning of "mate choice." Along with this, "natural choice" enabling life to adapt to the environment continued. Through its long history, the earth has chosen lives, and therefore, lives exist now on the earth as a result of those choices. I would like to call the knowhow to survive (or to be chosen) Design. Only humans began to create artifacts called "tools." After inventing machines and electronics, we now are producing alter egos making full use of information technology and life science. They are tools equipped with artificial brains. We can see the coming of the age when these tools with artificial brains will be chosen "in preference to humans." The age may come when humans would be selected by tools. Thinking about future

problems, we will not be able to find solutions unless we seriously consider the meaning of our presence as designers.

* Happiness should be the purpose of design

Tomoko INUKAI, social commentator, author

I think "design" should be useful and by that I mean that design should improve our living. Considering my life, I conceive a plan, then design and implement my plan. This is the process of designing. I have two points in my lifestyle. One is that I don't do what I don't like to do. The other one is that I don't bring things which are not beautiful or which do not function well into my house. I would like to surround myself only by things I like. My motto in living is to live to enjoy. We are born to become happy. But when I think about the life in the 21st century, I realize that we cannot seek only human interest. We have to consider the bio-

犬養智子 評論家、作家

幸福になるためのデザイン

デザインを考えてきて、はっと気がついたことがあります。デザインとは抽象的な概念のため、特にプロの人たちはつい考えすぎてしまうのではないか。だから、あらためて「デザインとは何か」と聞くと答えられない。そこで私は、もっと単純なことではないかと気づきました。私は「デザイン」は、役立つものでなければならない、それはイコール私たちの暮らしを良くするためのものである、と考えます。そこで、抽象的なことではなく自分の経験からお話をします。

私は自分の人生を設計していくときに、計画し、設計し、実行します。これはデザインの過程です。私の生き方には二つ柱があります。一つは、嫌いなことはしない。例えば、義理のパーティには出ません。好きな人のパーティにはもちろん喜んで出るけれども、義理だけののは失礼します。第二の柱は、嫌いなものイコール美しくないもの、ちゃんと機能しないもの、これらを絶対に家に入れません。私はヒトが顧みないクレンザーひとつでも、美的でないものは使いません。だからコンピューターはアップルに出逢うまで買わなかった。



いものは使いません。だからコンピューターはアップルに出逢うまで買わなかった。

こうやっているんなものを排除しながら、好きなものだけに囲まれて暮らしたいという私の人生のモットーは「楽しんで生きる」です。ラテン語では「カルペ・ディエム」、「今を楽しめ、今を生きよ」、フランス人のいう「ジョワ・ド・ヴィーブル」です。人間は幸福になるために生まれたのです。その幸福になる権利を、人目を気にして自己規制したりしている。あなた自身を、他人の目から解放しよう！

しかし21世紀を考えると、人間だけの利己主義では絶対にダメです。すべての生物のことを考えて生きていかないと、宇宙船地球はいくつあっても足りません。バイオ・キャパシティ、地球の能力を考えていかなければ、サヴァイヴァルできないから、ますますデザインの持つ広い意味での働きは大事になってくると思っています。

楽しんで生きるために、日々、笑って生きようじゃありませんか。幸福は伝わる、不幸も伝染する、栄久庵憲司さんは、太陽みたいな笑いで人に幸福を与える人、見習ってはどうぞでしょう。

車戸城二 竹中工務店設計本部長

近代の尺度で見てきた幸福のクライテリアを変えるデザイン

デザインを内側から捉えるのではなく、デザイン以外で起こっていることに注目して、翻ってデザインの役割をどのように考えるかを話します。



私たちは、東日本大震災、福島原発事故で大きな痛手を被りました。震災が起こる以前の

思考を検証する中で、その原因が見えてきています。我々が建築設計に普段使っている大型地震の再現期間は、ほぼ500年です。500年でいいと勝手に決めています。再現期間を1000年にすれば、あのサイズの地震や津波は、当然予想されなければいけないということになります。ここまで津波がきますというハザードマップというものがあります。そのハザードマップが現実の役に立たなかった。ハザードマップでこの大津波を予想したら、町が全部含まれてしまい、町が成り立たなくなってしまう。だからそれより小さな津波想定しかできなかったとマップ製作者はTVインタビューで話されていました。三陸地域に有名になった「高き住居は兎孫の和楽 想へ惨禍の大津浪 此処より下に家を建てるな」という石碑があります。明治29年、昭和8年に今回と同様にこの石碑の近くまで津波がきているということです。なぜ我々は、ちゃんと石碑から学ばなかったのか。

原発の非常用電源が津波で沈んだといえます。非常用電源は地下にありました。他方、その原発のオリジナルのアメリカ製デザインはアメリカ内陸部を想定していて、津波の心配をしてい

capacity or the capacity of the earth, otherwise, we will not be able to survive. The function of design in a broad sense will be increasingly important.

* New lifestyles and concept of happiness

Joji KURUMADO, managing officer, general manager, design department, head office of Takenaka Corp.

We were hard hit by the great earthquake and the Fukushima nuclear power plant accident in East Japan. The usual time span of the occurrence of great earthquakes we apply in preparing an architectural design is 500 years. If we take 1000 years, then, we need to consider the occurrence of a great earthquake of the scale of March 11, 2011. Many local towns have tsunami hazard maps, but they were no use on March 11. A map maker was saying in his TV interview that if they had taken into account a tsunami of that

scale, the whole town would have been considered hazardous, and so they had to assume a little smaller tsunami.

The backup power system in the Fukushima I power plant was completely submerged by the tsunami. The original design of the power plant was prepared by Americans who assumed the plant would be located inland. They had no idea about the surge of tsunami. The March 11 great earthquake revealed that we had not put what we could reasonably infer into practice.

According to the simulation by a consulting firm, we will need four earths at the end of this century, if we continue to live as we do now. As we cannot change the earth, we must change our lifestyles, and the concept of happiness. We must present a new concept of happiness through our designs.

なかったと言います。このように合理的に推論できることをしっかり学んでこなかったかもしれないことが、これらの被害の中で分かってきています。

今、国連が予想している世界人口のピークアウトは2050年で、その人口一人ひとりに対して、物質やエネルギーの負荷が相乗的にかかってきます。あるコンサル会社のシミュレーションによると、私たちがこのままの生活を続けると、今世紀の終わりには地球が四つ必要だといわれています。私たちの幸福というもの、未来と完璧に矛盾を起しているということです。

地球を我々は変えられません。したがって、我々が変えなければいけないのは我々の幸福の方です。すべての問題を解決した上で、近代の尺度で見てきた幸福のクライテリアを変えて、新たな具体的な幸福というもの、デザインが提示できなければいけないと考えています。

森口将之 フリーランスジャーナリスト、モビリティ代表

人間が使って心地よく幸せになれる、人間中心のデザイン

今、いろいろな新しい乗り物が世の



中に登場しています。そのいくつかを先ず紹介します。

パリに「ヴェリブ」という、

移動の手段の一つとして市民や観光客に使ってもらうサイクルシェアリングがあります。この種のシステムは、ここ10年でヨーロッパ中心に増えてきており、日本にも登場しています。

地中深く掘って地下鉄を通したり、空中に軌道を設けてモノレールを通したりするのはお金が掛かるし、景観面でも良くない、また上下移動が多く使にくい人もいる、ということから、最近、路面電車（LRT、トラム）が見直されています。日本では富山、広島などに走っています。

今まで個人で所有するものだった自動車を貸し出して、好きなときに乗れるカーシェアリングも、都市においては無駄なスペースだった駐車場を減らすことができ、電気自動車を使えば環境にも良いということで普及の端緒がきています。

最近になってこうした新しい乗り物が増えているのは、便利というだけではない背景があると考えています。そこにあるのは「モビリティ」という考え方です。モビリティとは「移動のしやすさ」ということです。そこでの主人公は、乗り物ではなく人間です。

人間がどこかに行く場合に、何を使ったら一番いいのか。それを考えたら当然、いつも自動車なんていう答えは出ないわけです。やはり目的に応じていろいろな乗り物を使う。自分でそれを全部持つことは不可能ですから、必要があれば借りる、と。借りるためのシ

ステムというのが先ほど見せたような自転車だったり、カーシェアリングであったりするわけです。

そこで求められることは、乗り物としての技術やデザインだけではなく、人間が移動するためのデザインや技術です。都市の中で人間をどう動かすかというのがモビリティの真髄じゃないかと思います。人間が使って心地よいもの、社会が幸せになれるもの、そういうデザインが、これからは一番大事なのではないかと考えます。



* Design for human convenience

Masayuki MORIGUCHI, freelance journalist, president of Mobilicity Co., Ltd

Various new vehicles are coming out now. Paris operates a bicycle sharing system called Velib. Citizens and tourists can use bicycles as a means of moving around in the city. Similar systems have spread in cities in Europe and Japan. Tram cars are being reevaluated recently. Car-sharing is also increasingly adopted. It is promoted by using electric vehicles for an ecological reason.

Why are these new types of vehicles and systems devised? When we consider the best way to go somewhere, motorcars are not always the best option. We want to use different kinds of vehicles according to our purposes or destinations. But we cannot possess all that we need, therefore, we need to be able rent what is appropriate. This is how rental systems have become necessary, be

it car-sharing or bicycle-sharing.

It is not technology and design for vehicles that is required but design and technology for humans to move around. The essence of mobility is how to help people move around in cities. Designs seeking comfort for users and good for society will be the most important.

Comments

MIZUNO: Now I would like to invite commentators to speak.

Keiko TORIGOE, prof. of Aoyama Gakuin University

I agree with Mr. Taniguchi that we should define design to be a framework of perception as well as that of solution. Mr. Yamada traced back the origin of design to 700 million years ago, and said

コメンテーター発言

鳥越けい子 谷口さんのお話の「デザインというのは認識の枠組みであり解決の枠組みである」というのは、本当にその通りだと思いました。山田さんのお話の「デザインという行為の起源を7億年前」というのも、とても面白い切り口だなと思いました。お話の中の「生命はさまざまな選択を繰り返しながら現在にきている」から、友人の獣医畜産大学の専門家から聞いた話を思い出しました。それは「蟻の群れの中に、いつものんびりして働かない蟻がいる。それを長い目で見ると、種の保存としての意味がある。例えば全部の蟻が戦って、全滅すればその種は滅びる。でも中には、ほんやりとしたのがいて、それが生き延びれば種は保存される」ということです。その話を聞いたとき、ある種の幸福感を味わったことを思い出しました。犬養さんのお話もなるほどと思いました。ただカネヨのクレンザーを見たとき、祖母も使っていたので、昔の台所の風景が甦ってきて懐かしかった。その思い出があるので、私だったらたぶん防水加工とか新たな工夫をして使うかなと思いました。いずれにせよ、物に自分ならではの意味付けをする、そういうデザイン手法もある。私のやっているサウンドスケープ・デザインでは、そういう部分も重要になります。車戸さんのお話にも共感しました。環境負荷の低い生き方は、私が子ども時代を過ごした昭和30年代の家に

なり近いと思います。雨戸の節穴から外の光が漏れてきたり、周りの音がよく聞こえたり。外部環境との繋がりという意味では、昔の家の方がずっとリッチなわけですが、私たちは今、そういう豊かさを失っている。少し知力を働かせれば分かるはずだという意味で、社会全体としては馬鹿みたいなことをやっていると思いました。森口さんのお話、モビリティは移動することというのに関して、私もここ4年ばかり、首都高下の日本橋川の船着き場から船を出して、移動する船上での音楽を通じて都市の音を聴くための音楽会を環境デザイン活動の一環としてやっています。都市の中の移動ということを考えれば、もっといろいろなことができると思いました。

最後に一言、水野さんが最後に幸福のデザインというお話をされていたので、私が最近心から幸せだと思った瞬間についてお話しします。3.11の津波被害地の音風景の変化を調べに、1週間以上水没していた仙台市宮城野区の七北田川の河口を訪れました。津波直後の夏だったので、昆虫などの鳴く虫はいなくなり、静かになっているのではないかと予測もあったのですが、まったくの逆。そこは普段よりも元気なのではないかと思われるような虫の鳴声に満ちていた。その少し前に父が亡くなったと



いう個人的な出来事も影響していたのかもしれない。が、津波で大勢の方が亡くなった場所で、虫の声に象徴される自然の力のすごさを感じ、「草葉の陰」の虫と亡くなった先祖とが重なり合う感覚というのを初めて実感したとき、何か不思議な幸福感を覚えました。

水野 情感のこもったコメント、素晴らしいと思います。豊かさの概念のデザインをし直さなければいけない。自然の音などが、今の都会の生活ではまったく遮断されている。もう一度、昔の豊かさの概念に戻していくことが大事になってきているのではないのでしょうか。

佐藤典司 今、デザイナーがやるべき仕事はたいへん多い。デザイナーが先頭に立って日本や世界をリードしていかなければいけないという感じを持っています。私は、社会の価値が物やエネルギーから「情報」に変わってきているという仮説を持っています。例えば、私が暮らす京都の龍安寺の石庭、その石を2倍入れて砂を盛り上げたらもっと観光客が来るのではないかという論理が、今までの私たちがやってきたことなのではないか。そういう物質的な価値観はもう終わり、石庭で言えば、石組みや石の配置の構成の妙、そこに僕たちは価値を見出しているのではないか。今日、皆さんから出てきたことは、すべて共通して物質やエネルギーから得られる価値がある種限界に達しているということ。それを超えた知恵を考えなければいけない、というご意見のように感じました。

that living things had survived by repeating selections, which was an interesting approach. That reminds me of a story I heard from an expert, "while many ants are working, there is an ants that do not work at all. It is meaningful from the perspective of the survival of the species. When others fight and are defeated, the non-fighting ones might survive and the species would be maintained." I understand Ms. Inukai's policy in living. The kitchen cleanser you referred to reminded me of my grandmother who had used it. I think I would use it out of convenience even if its design is not good enough by adding something to it that makes it suit me. This could be one way of designing. I fully sympathize with Mr. Kurumado's idea that we need to change our living and decrease the burdens we place on the environment. Motorcars are not the only means of transportation as Mr. Moriguchi said. I have been organizing a boat tour on the Nihombashi River in the center of Tokyo as part of my environmental design and soundscape

studies, and I think there are lots more means for mobility in cities. In the summer after the March 11 earthquake, I visited the mouth of a river in Miyagino of Sendai which remained sunk underwater for more than a week, for a field survey to observe changes in the soundscape in the affected area. We anticipated that there would be no insects singing, and the place would be quiet all around. In fact, the area was filled with lively and louder singing of insects. I felt the amazing power of nature in the place where many lives were lost to the tsunami. As it was soon after my father died, I was all the more happy to feel insects under the sod and to sense that my ancestors were somehow related.

MIZUNO: Thank you for your sympathetic comment. The concept of richness should be designed anew. The sounds of nature are totally cut off in cities. It seems to be increasingly important to bring back the traditional concept of richness.



谷口さんは未来社会と問題解決という話をされました。問題解決のためには、総合的な力を使わなければいけ

ない。またオープンイノベーションということをいわれた。一つの答えがない世界では、答えの組み合わせが多岐に渡ります。世界を限定してしまうと可能性の芽を摘むので、オープンな中でやっていかなければいけない。これは大原則です。山田さんが全く同じ意味で選択と試行錯誤といわれた。答えがないですから試行錯誤をするしかない。試行錯誤の結果として我々はこの中に存在しているということだと思っております。犬養さんの言われた、まさに「私は美しくないものはダメよ」ということは、最初から物質やエネルギーとは違う価値観で選択しているということですね。車戸さんの言われた原発などの問題も、まさに我々の価値観や行為を物質とかエネルギーで解決するのは限界に達しているということだと思っております。原子力エネルギーというのはまさにそうで、エネルギーが必要だから核の問題にまで踏み込んでしまった。ただ量の追及ということをやって、しっぺ返しを食ってしまった。森口さんは、車を最初に求めるのではなく、動くということを答えだとすると、どういう組み合わせがあるかということと言われた。僕たちは、3+7はイコール

10ですねということをやってきました。それに対して10になる組み合わせはなんですか、ということを知っているわけですね。それにはいろいろな組み合わせが出てくる。マイナスもあれば0もある。10、すなわち動くということを出せばいい。そこにはありとあらゆる可能性が出てくる。鳥越さんのお話の虫の音も非常に面白いと思えました。自分との関係性を見直すことによって、虫の音を価値あるものに高めていく、そういう話だと思えました。



ディスカッション

水野 今、コメントをいろいろいただきましたが、プレゼンターの方々に補足などをお願いします。

谷口 変化そのものに対して、それを本質だと見抜いた社会、これは情報社会の持っている本質論につながっていると思いますが、変わるの自分だということなのです。人間は変わることによって今まで生き延びてきた。変化が大きく起きているときに変わることを恐れてはならない。むしろそれをチャンスにすることが大事ではないかと思っております。

山田 デザインという行為を7億年前まで遡ったということは、人だけがデザインをしているわけではなく、ありとあらゆる生き物すべてがデザインをしてここまで生きてきたということ言いたかったのです。しかし地球上の生き物の一番頂点に人は立っている。食物連鎖でも人が頂点です。その人の敵がどこにいるかということ、実は我々が人類と名乗った瞬間に手にした道具たちではないか。その中で僕等が変わって何かをやってくれる電腦道具、これがこの先相当な強敵になるという感じがしています。

犬養 私は、遺伝子組み換えということが人類の滅亡につながるのではないかと考えています。神への冒瀆ですね、これは。やはり地球をつくって宇宙をつくったのは神というものすごく

Noriji SATO, prof. of Ritsumeikan University

I gathered from all your presentations that the value provided by physical substances and energy has now reached its limit, and we must work out wisdom beyond the limit.

Mr. Taniguchi discussed a future society and the solutions of its problems. In a world which has more than one solution, we need to combine possible solutions in many different ways. He referred to the need for "open innovation" to openly seek ideas. I think this is the general principle. Mr. Yamada referred to selection and a trial and error approach in the same meaning. Ms. Inukai's policy "to bring only beautiful things into my place" is that she has chosen things based on her set of values different from that valuing materials or energy. The problem of the nuclear power plant that Mr. Kurumado referred to may suggest that we came to employ nuclear energy when we were in need of a greater amount

of electric energy and now we are facing the backlash of our choice. Mr. Moriguchi said that if we were to look for a good means of transportation, we should find various combinations of vehicles, instead of each person possessing a motorcar. And the combinations include sharing of bicycles and motorcars. Ms. Torigoe's story about the singing of insects was interesting. By evaluating the relationship between insects and herself, the value of singing of insects becomes higher to her.

Discussion

MIZUNO: I would like to ask the presenters to give their additional comments.

TANIGUCHI: Humans have survived to date through making changes. When a great change is going on, we should not be afraid

オピニオンズ 今あらためて問う「デザインとは」

不思議な力であるということを考えて、私たちは謙虚にならなければいけない。そして経済優先を捨てる、それを推進してきた男が変わらなきゃ絶対に駄目だと思います。

車戸 わかりやすく説明をするために、環境で発展途上国と先進国のスタイルを対比的に示しました。発展途上国の人は先進国的なイメージを目指して人口も増えているし、ライフスタイルを変えつつある。そうした方向性に対して、新たな具体的なイメージをデザインで示すことによって変えていくしか方法はないのではないかと考えています。

森口 「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、今まさにそういう問題になっているのではないかと思います。車も何キロ出ますとか燃費がどれくらいですか、そういう狭い分野に突き進んできた挙げ句に、車は本来どういう目的のためにあるのかを忘れて



きた。それで乗り物よりも人が動くと言ったのです。

水野 それでは、会場の皆さまと議論を進めたいと思います。

田中一雄 問うべきは、今、私たちが何をしなくてはいけないか、ということだと思います。今日お話を伺って



思ったのは、やはり、大きな変化が起こっているということだと思います。私が活動している日本工業デザイン協会では、デザインの基層と先端ということをテーマに昨年シンポジウムを開催しました。このテーマは、デザインが非常に見えにくくなっている、デザインがわからなくなっている、という状況から出てきました。その状況がなぜ起きているかという、デザインというのは幸せをつくること、ということにおいては変わらないと思うのですが、幸せの定義が変化している、あるいは変化をさせなくてはならないからだと考えます。そうした価値観が変化する中で、あらためて問題を発見し、解決していき、それを形化していくというデザイン本来の役割を果たさなければいけないのではないかと思います。

水野 確かに、今の時代は政治にもデザインが必要であって、日本がいうと

ころの国のかたちというのはまさにデザインだと思うのです。これから50年100年の後に、どんな国になっていくべきかというデザインが本当に必要なのではないかと。一人ひとりが全部デザイナー、自分の人生のデザインというものもあると思いますし、生き様のデザインとか死に様のデザインとか、そんなこともこれから考えていかなきゃいけない時代になってきているのかな、という感じはします。

中西元男 私は、基本的にデザインは経営学とか社会学だとか、あるいは心理学、認知心理学とか、もちろん工学などを全部入れて捉えることが要ると思っています。いい意味での融通無碍性というのがデザインだと考えてきました。そういう意味合いで、いよいよそういう問題がここのところで露呈してきたかな、と思う。最近ではデザインよりもむしろデザインシンキングだと、それが重要だという論が出てき始めました。逆に、経営学にはデザインシンキングが必要だとも言われています。東大の大学院でも工学部が中心になって、デザイン思考といっていますけど、それを取り入れた試みを始めています。いわゆる美術学校の教育を受けた人じゃない人たちが、デザインが重要だということに目覚め始めて、いろんなところでそういう論が出始めている。デザインというのがそういう意味で言うと面白いのは、技術と文化を

of changing ourselves. Rather, we should take it as a chance.

YAMADA: I looked back at 700 million years ago because I wanted to say that all living things on the earth have designed their ways to survive until today. Humans are at the top of living things now, but I anticipate that tools, particularly electronic tools would turn out to be our enemies.

INUKAI: Considering that God created the earth and universe, and that he has wonderful power, we must be humble. We should throw out economy-first policies. Men who have advocated those policies must change.

KURUMADO: People in developing countries are changing their lifestyles to follow people in developed countries. Their populations are increasing. We should show a new lifestyle through our designs to redirect the ongoing process.

MORIGUCHI: There is a proverb which says "We can't see the wood for the trees." That is the situation we are in. People are more

concerned about the higher speed or fuel consumption. While seeking these factors, we may have forgotten the essential function of motorcars.

MIZUNO: I will open our discussion to the audience.

Kazuo TANAKA: We should ask ourselves what to do now. Listening to your presentations, I sensed that a great change is going on. Design is meant for offering happiness to people. This principle does not change, but the definition of happiness is changing. Therefore, we need to find problems in the value changing process, and solve them through visualization in design works. This is the function of design.

MIZUNO: Each person can be a designer. We may design our life course, how to live or even how to die.

Motoo NAKANISHI: When considering design, we should cover

結びつけたり、あるいは経営と環境を結びつけたり、そういうことを可能にするような分野だ



というところだと思います。だから、デザインの世界からリーダーとか、むしろ新しい価値をつくるという意味ではイニシエーターと呼んだ方がいいと思いますけど、そういう人を生み出すことをこれから構造的に考えていかないといけないのではないかと考えています。そこではデザイナーというよりもデザインリスト、要するにデザイン主義者が要る、と考えます。

水野 その概念自体は、デザインというのを広義で捉えなければという、私たちの基本的な問題意識と非常に共通しているのではないかと思います。

中西 そうですね。現象という言葉は、「現」というのは現れて目に見えるもので、「象」というのはそれを裏から支えるものと言いますが、「現」がちゃんと存在するためには、ちゃんといい「象」がないと駄目だと言います。谷口さんがコンセプトと言われたけど、理念とか指針とかコンセプトとか、そういうものがあって、かたちが意味を持ってくると。そういうような構造だと思います。

水野 だから僕は、国もそうだと思うのです。国家の指針をデザインするということがないので、表層的なデザインということにあまりにも汲々とし過ぎている。

浅井治彦 フィリップスのデザインセンターに行くと、デザインとは、橋をデザインするのではない、川の渡り方をデザインするのが本来のデザインである、と言う。元々デザインという考え方自体が、いわゆる問題というものを炙り出して、そこに皆さんおっしゃるように人の生活、人の幸せのために何ができるかという問題解決をしていって、それが色やかたちになったり、仕組みの提案になったりする行為だと思う。しかし今ソーシャルデザイン的なことが注目を受けていますが、はたしてデザイナーが本当に社会を変えられるのか、現実的に実際的にどういう方法でどう提言していくのかというと、



正直言ってまだ答えが出ていないのではないとも思います。その問題解決はまだできていないのだということを、痛感すべきだと思っています。

水野 そういう意味では、中西さんのいうデザイナーにならないといけないのかもしれないですね。

浅井 そうですね。あと、もう一つは教育。戦後のいわゆるデザイン教育というのが、かたち・色というところの職人的なデザイナーを育てきた。そこをどうするかというのがあります。

黒田宏治 私自身、デザインの接点というと、いわゆる中西さんがいわれる

美術教育とは違うところからデザインに飛び込んだものですから、広い意味でのデザインですとか、あるいは先ほどから言っている世の中を変えようとか、ソーシャルデザインとか、企業文化のデザインとか、そういうところにデザインがあるべきだということを、かねがね思っています。一方で実は、デザイン教育に携わっていて不安に思っております。今、浅井さんも言われた、デザインって色とかかたちだけではないかもしれない。しかし、日本の産業をみていると、職人じみて汗かいてやるのが格好悪いというようなと言われる時代があって、ものづくりの現場が海外に行ってしまうと、産業の空洞化を起している。デザインに関しても、社会を変えるソーシャルデザイン、企業文化、CIと、元々造形に近いところのデザインをやっていた方の多くが、そちらになびいているような気がして、それも怖いと思います。ロゴをつくるのがCIじゃないですけど、ロゴをつくる技はいる、そういった部分に関していろんな分野のデザイン教育があってよくて、そういう意味でのスペシャリストとしてのデザイナーというものはあっていいのかなと。これと決めるのではなくて、いろんなデザインがあるので議論を広げてい



business administration, sociology, cognitive psychology and engineering. Recently, design thinking is emphasized even in the fields of business administration and engineering. Design can connect technology and culture, or management and the environment. Therefore, it is possible that new leaders or initiators who create new values will emerge from the world of design. In this sense, we need "design-ism" and "design-ists" instead of designers.

MIZUNO: Your opinion to consider design in a broad sense is common to our basic consciousness.

NAKANISHI: When a basic concept or policy is firmly established, a designed form has a meaning.

MIZUNO: It can be said to the nation, or the state. We tend to be much too concerned about superficial designs because we do not seriously get involved in designing national policies.

Haruhiko ASAI: In the Design Center of Philips, it is said that design is not intended to design a bridge but to design how to cross a river. Design is a process to identify problems, and to give solutions in forms, colors, and mechanisms to given problems - how to help people live more comfortably and happily. Now, social design is often talked about, but answers have not been found yet as to whether designers can change society, and in what way they can make proposals.

Koji KURODA: I have been thinking that design should be considered broadly to include social design, corporate culture or corporate identity design and so on. But design education has focused on colors and forms. I am now concerned that those who have studied colors and forms may be changing direction to social design and looking toward corporate culture or corporate identity design. Of course, skill is required to create logos, so, there may be designers specializing in creating them, but there should be

ただけるとありがたいなと思います。

田中 黒田さんのお話に関連してですが、モノかコトか基層か先端かではなく、モノでありコトである、基層であり先端でありだと思ふ。ただ、今、コト性ということ非常に重視しなくてはいけないということが求められている。なぜかという、問題が非常に多い社会だからだと思ふのです。ですから、フォルマニストとしてのデザイナーという部分ともう一つイノベーションプランナーとしてのデザイナーという部分の両面が同時に必要とされていると思ふ。

小野寺純子 私はデザイナーではないのですが、皆さんのお話を伺っているのは、デザインというのは一般の人々は、空気みたいな存在で、あって当然だと思っているのですね。だからいろいろなものに対して、デザイナーがいろいろ考えてつくられたものというよりは、元々こういうものがあつたと思っている。それから人間ってやはり、先ほど犬養さんが言われたように、本能的に美しいものを求めている。それから完全なかたちというものも。だからデザインというのは、人間の本能に近いところに存在しているのではないかと感じま



した。そう考えるとデザインは、人間とともに、人間に一番近いところにあるものだと思うし、人間と共に永遠に生き続けると思ふので、決してデザインという職業もなくなるものではないだろうと思ひました。

松本玲子 私は音楽をやっています。20世紀、ずっと音楽が目指してきたことは、如何に正確に如何に大きな音で、といった目標がありました。ところが電子楽器が、それを非常に簡便に到達することに成功したのです。それを手に入れた瞬間に何を始めたかということ、ただ単に正確というのは非常につまらないということに気がついて、正確に100個の音がボンとなるのを、ずらしていく作業をしているのです。今、一生懸命ずらして、豊かな響きを得る作業に入っている。ずらすということをしてみると、音と音の間にもっと沢山の音が存在していた、ということに気づいた。でもこれは東南アジアの民族音楽には、ずっと昔から普通にあつた。そういうことに気がついたので。そこに一つキーワードがあるのではないかと思ひました。デザインという言葉の中には、自然や地球の中に自分の居場所をちょっとつくらせてね、というような感覚があるような気がします。そういう



中で幸せのを見つけ方かなと思ひました。

迫田幸雄 デザインという言葉は広く社会を捉えることだと思ひますが、デザイナーという立場から見ると結局責任を持つところは色かたちだとあえて言ひたい。教育の話がでましたが、小学校の頃から色かたちについてしっかりと教育をすべきと思ひています。デザインでもいいし、美術でもいい、そこで美しきものとはどういうことなのか、美しいかたちとはどういうものなのかということ、子どもの頃から教えることが肝要と思ひます。そうして育んだ美意識を、自信を持って自分の生活の中で言えるようになって欲しい。大人になって教育をしても、それは言ってみれば世過ぎ身過ぎの教育になる恐れがあり、上擦った話になってしまうような気がします。(拍手)



本田竜也 今回のテーマから私なりにデザインとは何かをあらためて考えて、今日の議論に参加しました。僕が思うデザインというのは、国語・算数・理科・社会という小学校のカリキュラムとまったく同じだと思ひています。まさにその四つがデザインだと思ひています。今、デザイン会社

different designers with other purposes.

TANAKA: Today, designing intangible things is strongly demanded. It is because we live in a society filled with problems. Therefore, we need designers as form and color creators and designers as innovation planners.

Sumiko ONODERA: For common people, design is like the air. When we look at things, we don't think of them as products made by designers who have worked behind the curtain. We instinctively look for something beautiful with a perfect form. So I think design is close to related to human instinct. The work of designing will last for a long time, and design as a profession will never be extinct.

Reiko MATSUMOTO: I specialize in music. In the 20th century, we aimed to play music in the most accurate way and with the

greatest volume. When electronic devices were developed, our aims were achieved quite easily. As soon as I obtained the device, I realized that simply accurate music was not appealing. Then, I tried to delay the timing of sounds from the notes to get richer sounds. I noticed that there are more sounds between notes. These sounds have existed in folk music in Southeast Asia from long before. I realized this just recently, and I think here is a keyword.

Yukio SAKODA: The term design may mean to see society broadly, but from the standpoint of a designer, I dare say that we should commit ourselves in forms and colors. I think we should begin to teach colors and forms to elementary school children. It is important for them to develop an eye to evaluate beautiful forms, thereby developing their aesthetics which they can then apply in their future life. If design education is started after people have grown to be adults, their aesthetics will be hardly developed.



に勤めています。そこでいろんな企業の方とお話をする時に、言葉、日本語がなかなか通じないと思うことがあります。これは国語の問題です。それからプロジェクトで500万人が使うサービスを立ち上げてくださいというのがありました。その500万人というのを、一人20人の友達をつくって、それぞれに5人に使ってもらおうというところから始めると数字が具体的に見えてくる。これは算数。次に何かやる時にトライアンドエラーを繰り返す。これは理科のアプローチ。そして社会を知らなければデザインは成り立たない。この4教科がデザインなのだと思います。

水野 では最後に、栄久庵さんお願いします。

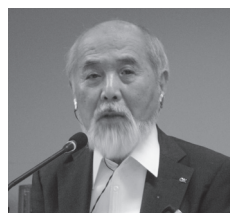
栄久庵憲司 今日は、よくぞこれだけの賢人が集まったなと感じております。デザインを考えると、ミクロに捉えるにしても、マクロに捉えるにしても、アプローチの仕方というのを考えなければいけない。例えば、マクロな目標として日本民族の存在は何かというのがありますが、どうしたらその目標に近づけるかということを実践的に考えることが肝要です。

こんな話があります。達磨大師が中

国で布教に行った時に、色々な戒律を持ち込んだらしいですね。それがなかなか定着しなかった。そこで大師はただ一つだけ「座れ」と言った。そして、それだけは守られた。その「座る」ことが日本に来て「座禅」に昇華した。この「座れ」ということが実践的なのですね。

また、御木本幸吉という人が養殖真珠を手を持った時に、これで全国の女の首をしめてやろうと言った、叫んだそうです。それが世界のミキモトパールになった。これも首をしめるという実践の話です。

左甚五郎の話ですけど、師匠が弓の絵を紙の上に書いて、それに蔓をはれと言われた。面相をつかって一気に描かなければいけないけど、手がぶれて、なかなかまっすぐ描けない。3千本



描いたらやっと弓に蔓をはることができた。ともかく描くという実践を繰り返したということです。そこには忍耐という精神性も含まれている。

今お話しした例にあるような実践的なやり方を示すことができれば、日本デザイン機構は素晴らしいものになるし、日本のデザインの道筋になり、また教育の基本方針になるでしょう。色々なことを考え目標をつくったら、必ずその目標へのアプローチの仕方と

方法を探すということ、そしてそれを実行するという、これがとても大事と考えます。

水野 達磨大師から左甚五郎まで、最後は精神の問題に返ってくるのではないかな、ということを学ばせていただきました。ありがとうございました。これで今日のオピニオンズを終了いたします。



Voice of Design フォーラム オピニオンズはUstreamでライブ中継いたしました。次のアドレスで視聴ができます。
< <http://www.ustream.tv/recorded/34206169> >

Tatsuya HONDA: I think design is just the same as elementary school subjects, Japanese language, mathematics, science and social studies. These are basic subjects that will develop the skills that are necessary in design business. A Japanese language skill is required for communication with clients, mathematics for counting targeted users, and science for repeating a trial and error process. Without understanding our society, we cannot focus our targets. So, these four subjects are basics for designing.

Kenji EKUAN: In considering a design, be it a microscopic or macroscopic design, we also need to devise approaches. After setting a goal, it is necessary to think of practical ways to reach the goal. If we can show practical approaches, I am certain that the Japan Design Institute will become an excellent organization for leading Japanese design and presenting the basic guidelines for education. What is essential now is goal setting, devising

approaches and implementation.

MIZUNO: We have discussed a wide variety of opinions, thank you for your participation.

Questionnaire for JD members - What is design

1. What is your definition of design?
2. What do you think are the role(s) of designers?
3. What do you think are the tasks of design?

Daiki AMANAI: post-doctoral researcher in Tokyo University of Science

1. Design originally meant to integrate all techniques. But as industrialization progressed, the division of special techniques occurred, and design has become an independent "aesthetic" technique.

アンケート「デザインとは何か」

今回のフォーラム開催にあわせて、さまざまな専門や立場にいる日本デザイン機構メンバーにアンケートを実施しました。
(2013年3月～5月)

アンケート項目

1. あなたはデザインをどう定義しますか。
2. あなたが考えるデザインの役割は何ですか。
3. あなたが考える今日のデザインの課題は何ですか。

天内大樹 東京理科大学ポストドクトラル研究員

1.定義

この語は第一に、芸大・美大などでファイン・アートとの対比から「無からの創造」よりも所与の諸条件に回答する側面が強調される。第二に、本来個別技術の統合能力を指してきたものの、分業と産物の巨大化が進んだ建築分野などで、構造、設備などの個別技術と対比され「センス」の個別技術に矮小化した。さらに製品の味付け程度に位置づける通念も根強い（「デザインだけの製品」）。ここでは個別技術を形に統合する能力として考えたい。

2.役割

「建築家」という語が「建築」より先に成立したという古典語の経緯にならない、ここでもモノとしてのデザインよりデザイナーの役割を考えたい。とはいえ技術の専門化が進んだ現代、政治から製品まで諸分野を思想で串刺しできる統合者が一人上位に立つ体制は、ハイリスクの博奕にも思える。各所掌がデザイナーの意識を分有することで、各技術を統合に振り向けるといふ提言は過去無数になされただろうが、その方法論にデザイナーの専門性があるのではないか。

3.課題

前項とは一見矛盾するが、誰でもデザイナーになれるというのは幻想に過ぎない。過去蓄積されてきた、デザインの優れた経

験を共有した人物がデザインに携わる必要がある。今のところ産業デザインでは細かな職能別団体が形成されているが、建築家と建築士の問題も含め、資格の制定と認定方法の検討が最大目標ではないだろうか。何がデザイナーの専門性か、過去の蓄積を知っていれば資格を認定できるのか、認定された人物の何を保証できるのだろうか。

伊坂正人 JD専務理事

1.定義

デザインとは、人間の諸活動のための物、空間、情報、エネルギーなどの人工環境を、関係する諸専門を糾合して、利用者にとって最適なかたちに具現化する創造行為。またそうした人工環境を成り立たせる文化、社会、技術、経済、情報システムの的な諸条件を整えること。

2.役割

第一に、人間の諸活動のためのタンジブルおよびインタジブルな人工環境の実態を歴史、比較文化的な視点をふまえて評価し、次代のあるべき姿を提示する。

第二に、提示したあるべき姿を、様々な立場の利用者および諸専門の間で検討する機会、場を設け、納得の構造を構築する。

第三に、納得を得たあるべき姿の具現化のためのロードマップの作成と諸専門の組織化を図る。

第四に、上記具現化を推進する。またその過程で、成立と件の変化などにあわせ修正を行う。

第五に、そうした担い手の教育、未来への伝承。

3.課題

人間の営みのグローバル化、ダイバーシティ化にあわせたタンジブルおよびインタジブルな人工環境の創造。その人工環境を以下のソーシャルデザイン課題として考える。

- 1.構成要素の関係性をみる。
- 2.人工環境を総体としてのシステムとしてとらえる。
- 3.今日の社会課題解決を目的とする。

2. Designers can present methods to integrate relevant techniques.
3. Institution of qualifications as professional designers and systems to certify them. The difference between Japanese architects and European ones is not clearly recognized.

Masato ISAKA: JD executive director

1. Creative activities to actualize objects and man-made environments into appropriate forms for users by employing relevant talents. Also to prepare the conditions of culture, society, technology, economy, and information systems ready for the man-made environments.
2. To evaluate tangible and intangible man-made environments from historical and comparative cultural aspects, and present desirable environments for the future. To prepare opportunities for users to examine and agree on the proposal. To prepare a road map to realize the proposal, and organize specialty groups.

- To educate people to carry out the proposal.
3. Creation of tangible and intangible man-made environments to cope with the globalization and diversification of human activities.

Tomoko INUKAI, social commentator, author

1. To consider how to achieve happiness, plan and carry out the way to achieve it. The basic principle is to do them on the global level, taking into account living together with nature covering all living things, seas, mountains, rivers and forests.
2. We should enjoy living our lives. Designing and planning a happy life for individuals in harmony with the environment as a "vessel" for them. Considering the bio-capacity of the earth, placing priority on economy should be terminated.
3. Design should have dynamic power. The basic driving force is individuals or citizens asserting themselves. We should explore ways for survival with historical consideration, uniting people

犬養智子 評論家、作家

1.定義

デザインを広義で考える。人は幸福になるために生まれた。私たちが暮らす社会で、どうやって幸福を達成するかを考え、計画し、実行へ移すのがデザインだ。私たちは地球という船にのっているから、地球規模で幸福達成をはかることが基本。人間だけの幸福でなく、地球上の生物・動植物から、海、山、川、森など自然界との共生を視野に計画し、実行すること。狭義のデザインは、広義のデザインの中の1部門と考える。

2.役割

＜人生は楽しんで生きる＞もの、これがすべての基本だ。したがって個人の幸福な人生の設計から、＜個人の容れ物＞としての環境との共生を旨として計画すること。個人の幸福達成は、生涯にわたって自由、独立、尊厳を確保すること。具体的には、時間的ゆとり、文化のある美的な暮らし、男女不平等や人種偏見の排除。地球全体がサヴァイヴァルできるよう、バイオ・キャパシティを視野に経済優先をやめる。

3.課題

デザインはダイナミックなパワーを持つべき。その基盤は、自己主張する自由な個人＝市民だ。個人vs政治権力と経済権力があり、ことにいま大企業は世界的に連携し強いパワーを持つ。そうした力と闘ってきたのが人間の歴史だ。私たちは歴史感覚を持ち、同じ心を持つ人たちと国境、宗教を超え友情でつながり、サヴァイヴァルへの道を探りたい。ユーモアは人を幸せにする、笑いを忘れずに。

佐野邦雄 インダストリアルデザイナー

1.定義

大きく見れば近代デザインは文明と文化の融合をはかる概念だ。方法の特徴は、さまざまな要因の「分析と総合」の間に「想像・イマジネーション」を入れる点にあ

る。想像は感性など定性的でありそれぞれの文化背景が影響する。そこが科学や技術設計などと異なる点でありデザインの存在価値でもある。近未来、機能的形態も含め分析的作業の多くはコンピュータが代行する。デザインは、より深く人間の特性と全体性を考え続けることだ。

2.役割

元々、美しく使いやすいものを求めるのは人間の本性であり、今はデザインに関わる多くの人工物がその求めに応えている。長い時間をかけて、人間という生物の必然性に基づいた最適環境が構築されるのだが、私たちはその試行錯誤の過程で生活しているわけだ。生物としての人間の好奇心と欲望は際限ないが、一方で、アニマル・シンボリックと呼ばれ、象徴を理解する高度の精神的な生き物でもあることに、改めて誇りと可能性を感じる。

3.課題

人間も自然の一部である以上、原自然の総体を直視する必要がある。1000年に一度の津波被害やその後の原発事故に、人工物への過度の依存や幻想に近い過信を感じる。「あの時から変わった」と後世の人々から言われるように、今は先ず学習の時代。平穏が去り災害大国に入ったことを率直に認め、欠落しているロングスパンの思考と現実的対応、双方への「想像力・創造力」が期待される。それは「広義のデザイン」への社会の期待でもあろう。

佐野寛 NPO法人まちづくりNEXT運動前会長、東京学芸大学大学院元教授

1.定義

デザインという言葉は「デザインという行為と、その行為の結果としてのモノや空間あるいは視覚表現の形」の双方を意味している。「デザインとしての行為」とは「デザインをする者（あるいはチーム）が、一定の目的に沿って、形態やイメージを想像あるいは計画し、外在化して関係者に共有させ、製作に移して実在としてのモノや空間や視覚表現をつくっていくこと」であり、その結果としてのものもろ（日用品、ファッション、料理、椅子や机や室内空間、室外空間、クルマや道やま

with friendships across the borders and religions.

Kunio SAN0, Industrial designer

1. Modern design aims to integrate civilization and culture. Imagination intervenes between "analysis and synthesis." Design is a continued process of looking into human properties and their wholeness.
2. Being highly spiritual as well as being practical to meet people's desires for beautiful and easy-to-use articles.
3. Long-term thinking and realistic responses, and imagination and creativity to put both into reality.

Hiroshi SAN0, former chairperson NPO Machizukuri NEXT movement, former prof. of Tokyo Gakugei University Graduate School

1. Design implies "the act of designing" and "the results of the act

of designing." The former is a process to conceive ways to achieve a given purpose, to express forms or images to be shared with concerned parties, and to put them into actual things.

2. In the long past, there were no designers as all artisans had design quality. As a result of scientific revolution, mass-production, and IT progress, the cultural quality of designs has been deteriorated. Designers are required to upgrade the quality of design.
3. The greatest issue in international politics is to bring back the international financial capitalist economy into the real economy.

Joji KURUMADO, Managing Officer, general manager, design department, head office of Takenaka Corp.

- 1+ 2. Design is able to present the totally optimal system. What dream can we see for the future when the physical limits of the earth, wastes, energy, water and food are seen? It is the role of

ち)である。(佐野寛著『21世紀的生活』三五館 1996より)

2.役割

昔、デザインの大前提は、それが行われる社会の常識として関係者の志向の中に存在していた。したがってデザイナーという職能はなく、陶芸家、仕立屋。建具職人、料理人、大工、建築家、発明家、注文する金持、役人などが存在すれば良かった。それが、18世紀の科学革命の時代、19世紀の発明発見の時代等の中から量産技術の時代が発展し始め、それが20世紀戦争の時代の中で大発展し、20世紀後半のIT技術発展の中で。人間の創造力がそのまま外在化する時代がやってきた。結果、人間世界のデザイン物の文化摘出の低下が起っている。そのデザイン的クオリティを挙げる役割が真のデザイナーに課されている。

3.課題

IT革命の進展に連れ、人間の生活も生活環境も社会環境も激変を続けている、それに連れて大きな、人類の問題が次々と生まれている。その中で一番大きいのは経済的課題であり、たとえば高嶺で売って安値で買戻すといった株屋の常識が、恐ろしいほどのスケールで行われている。巨大な力を持つファンドにとって、株の乱高下こそがそのまま儲けに直結する。彼等にとって問題は、思惑であり、皆の思惑を左右するきっかけである。そうした国際金融資本主義経済を、実物経済に戻すことが、国際政治のデザイン課題である。従って、われわれとしては、大課題への解決法を唱えながら、つまりあるべき状態への復帰を願いながら、2の真のデザイナーとしての今日的課題解決に取り組むしかない。

車戸城二 竹中工務店設計本部長

1.定義、2.役割

デザインのアートとの違いはシステムの全体最適を提案できる可能性です。課題としてとらえる範囲が政治や経済、ライフスタイル、価格、機能、CO₂削減など非常に具体的です。同じ形と色を扱いつつ立脚点が全く異なります。他方、形と色を扱う以上、付加価値の生産可能性が無限であるという意味でアートと同じです。地球の物理的限界、廃棄物もエネルギーも水も

食料も、すべて限界が見える中でどのように将来に夢を見るのか。それは具体的問題に取り組みながら無限の可能性を持つデザインが示すべき事柄だと思います。経済では“成長”と言います。しかしあらゆる限界を超えて、それを本当に果たしうるのはデザインでしょう。

3.課題

新しい価値観の提示です。物理的に限界があり、更に人口も支えきれない。そうした中で何が幸福なのかを具体的な世界として提示することではないですか。例えば殆どエネルギーを使わないのに心地いいオフィス。更に耐久性がありごみを減らすことができる。効率を犠牲にせずに人間関係を深める機会を多く提供し、サラリー以外の幸福感を感じることができる。等。お金や物質以外の幸福を具体的に提示すること。

小林治人 東京ランドスケープ研究所代表

1.定義

私の専門は「Landscape Planning & Design」です。「人」と「自然」の関係を科学的(生態的)、芸術的(美学的)に究明して、相互の関係を総合的に調和ある環境(空間)として具現化し、持続させることである。

2.役割

人間も含めた多様な生きもの環境(空間)を、生きものの技術を活用して美空間創造を進めることを基本として問題解決に対処しながら、命の生存環境の保全・回復に貢献してゆくこと。

3.課題

グローバル資本主義がもたらす経済戦争によって、経済至上の科学文明が進化し、多様な命の生存基盤の維持が不安定になっている。日々のささやかな仕事に没頭しながらも、何とかしなければという歯がゆさ。デザイン理論があふれている中で、私心をなくし無心に行動する力が不足していることを嘆きたい。そんなことから「有名は、無名に勝てない」現象が起きているのではないかと。

designers to present dreams while addressing concrete issues.

3. To present new values. To present a picture of what happiness would be like when the earth has physical limits to support the entire population of the world.

Haruto KOBAYASHI: Tokyo Landscape Architects, inc.

1. My work is intended to determine relations between humans and nature scientifically (ecologically) and aesthetically, and to express their mutual relations in a harmonious environment (space) and to maintain it.
2. The basic functions are to create spaces for various living things including humans making use of skills of various living things, and, while doing so, to help preserve and recover the environment for living things.
3. Economic war caused by global capitalism has promoted scientific civilization putting the economy ahead of all else. As

a result, the sustainability of the foundations for survival of various living things is at a risk.

Kuniaki TAMURA: lecturer of Osaka University of Arts

1. Design is an organic and dynamic group activity mobilizing the skills, wisdom, and aesthetic sense of relevant people for the chain of "living, nature, technology, the ease of use, and problem solutions" and forging consensus for execution.
2. To review the immediate task from a space-time perspective, and add on the accumulated creations of "beautiful, right, strong, and new values and sensation" by forerunners.
3. To create richer relations by combining civilization and culture promoting the integration of advanced and conventional technologies, interaction between Japanese and other countries, collaboration between nature and artifacts, and continuation between local and global environments.

田村国昭 大阪芸術大学講師

1.定義

デザインとは、「生活、自然、技術、使い勝手、課題解決」…この五つの連鎖を、関係各位がそれぞれのスキルや知恵やセンスを持ち寄り、「これで行こう！」と閃き合う、有機的、動的な集団行為である。

2.役割

当面の課題を、時空間を超える視野で捉え直し、先人が積み重ねてきた「美しく、正しく、強く、新しい、価値と感動」の創出の歴史に加わる事ではないか。結果的にそれが同時代の人々の憧憬を誘うことになる。

3.課題

金融、投資、資本、利益優先の世界的動向に対し、先端技術とアナログ技術の融合、日本と他国との交換、自然と人工の競演、地球環境と地域環境の連続など、文明や文化を多様に結びわせ、豊かな関係を作り直す。

水野誠一 JD理事、IMA代表取締役

1.定義

デザインは、狭義のデザインではなくて、広義のデザインとして捉えたい。大きな視野に基づいて、モノやコトのあるべき概念や姿やビジョンを決めていくこと。ミクロのデザイン=部分としての製品の形・品質・機能から、マクロのデザイン=それを取り巻く市場・社会・地球環境までを総括し包含するホロデザインを理想の姿と考えたい。

2.役割

20世紀的の一方向的な文明の進歩によって様々な矛盾が生じてしまった今日、生活文化の視点の再認識が重要だ。デザインは文明的なモノだけではなく、文化的なコトも考えていかねばならない。経済（エコノミー）だけではなく、環境（エコロジー）も併せて考えるときこそホロデザインの視点が大切だ。従来の生産中心の発想ではなく、生活中心に視点を置いて、生産～消費～使用～廃棄～再生までを考えるのがデザインの役割である。

3.課題

経済的な充足だけではなく、精神的な充足を併せて提案する役割も重要だ。豊かさや幸福の再定義こそがその根底にあるはずだ。新たなライフスタイルの提案をしなければいけない。

森口将之 フリーランス・ジャーナリスト、モビリティ代表

1.定義

ものづくりやまちづくりなど、何かを創り出すというプロセスにおいて、形や音、匂い、手触りなど、人間の五感に直接訴える部分で魅力を表現すること。つまり造形のみならず、企画、設計、開発などの言葉も該当するかもしれない。もちろん機能を犠牲にせずに魅力を与えることが前提条件であり、機能が伴わないモノはアートとして区別すべきである。

2.役割

問題を解決する「ソリューション」であり、作り手の気持ちを言葉以外で使い手に伝える「コミュニケーション」でもある。

3.課題

近年の日本には、短期間で結果を求める風潮、数字で判断する風潮が蔓延しており、デザインは無駄と考える人が多いこと。世界に目を向ければ、デザインの力で業界標準を書き換えた事例が多数存在する。我が国も個々のデザイナーの能力は決して低くはない。にもかかわらず、その能力を使いきれず、世界の流れに乗れない社会構造に最大の課題がある。

Seiichi MIZUNO: JD president, president of IMA Co.,Ltd

1. To determine desirable concepts, figures and visions for material and immaterial things from a broad perspective. Desirable is holo design that covers microscopic and macroscopic designs.
2. Focusing on people's life, designers should consider the whole process of production, consumption, use, disposal and reuse. They should have a holo design perspective to consider not only civilization but culture, and not only economy but ecology.
3. To redefine richness and happiness to offer both economic and mental fulfillment. To present new lifestyles.

Masayuki MORIGUCHI, freelance journalist, president of Mobilicity Co., Ltd.

1. To express enchanting forms, sounds, smells and touches that appeal to the five senses in producing things and developing cities. Design may cover planning, architectonics, and

development.

2. Solutions and communication of the thoughts of producers to users.
3. There are tendencies to seek results in a short time, and to evaluate results with numerical figures in Japan, and many people consider design is not necessary. Turning eyes to the world, there are many examples whereby the standards of an industry have been changed with the power of design. Able Japanese designers do not seem to display their full abilities. Problems may be in the social structure.

特集 2 Voice of Design トークサロン 6 シリーズ「今」の共有
知恵のエネルギー、知恵のデザイン
文明度は高くても文化度が低い生活にならないようにするには

期日 2013年9月12日 (木) 開会 17:30
 主催 日本デザイン機構 会場 アルカディア市ヶ谷 私学会館 (東京)



開会挨拶

水野誠一 JD 理事長、IMA 代表取締役

今日は小泉和子さんのお話しを大変楽しみにして参りました。というのは私自身小泉さんのファンで、いろいろ読ませていただいておりますが、一番好きな本が『昭和台所なつかし図鑑』です。私たちが子どもの頃の台所はこんなだったなと感じながら、まさに今日のテーマである「文明度は高くても文化度が低い」状態になってしまっている中で「知恵」が大変重要なキーワードだと痛感しているからです。実は、私の書いたこの『知恵のマーケティング』という本は17年前のもので、この本の中で「知識は20世紀に沢山蓄積され文明度はどんどん高くなった。しかし一方で、文化は消滅し始めているという今、知識ではなく知恵で暮らしを豊かにしていけないといけなのでは」と17年前から言い続けてきました。今日はその元祖でもあります小泉さんのお話を楽しみにして参ったわけです。

もうお一方のマニグリエ・真矢さんも

ご縁のある方です。私は以前、西武百貨店におりましたが、真矢さんが来日して初めての仕事が西武百貨店池袋店だったとのことで、今日のご縁のあるお二方のお話を大変楽しみにしております。

主旨説明

佐野邦雄 JD 監事、インダストリアルデザイナー

小泉さんは「便利さや快適さを生活の豊かさや勘違いしているのではないかと。文明度は高くても文化度が低いといったことにならないように」と鋭く指摘します。同じことは水野理事長も日頃いわれており、文明と文化のアンバランスが今問われています。私たちは「昭和」をきちんと総括する前に3.11を迎え、次のステップに入ってしまった、そのため昭和はかなり遠のいた感じがします。今日は単なる回顧ではなく昭和を相対化し小泉さんの実感溢れる話を通して、戦後社会の生活実態、モノとの関わり、価値観や何を豊かさ

としたのかを振り返り、その視点をもって今日の課題となすべきことへつなげたいと思います。

今日のタイトルは「知恵のエネルギー、知恵のデザイン」です。知恵を出すエネルギーはもともと一人ひとりに備わり、逞しい生活文化を築いてきました。しかし今日は、経済と便利主義に押され、充分発揮されていません。それを再生し、理性と文化をベースにした社会像につなげたいと考えます。今日は独自の生活文化を持つフランス出身のマニグリエ・真矢さんに加わっていただきました。会場には、小泉さんと同世代で、戦後の復興からさらに世界へ向けデザインを通してリードされた柴久庵憲司会長もお見えです。後ほど、実感あるご意見を期待しています。

Special issue 2 Talk Salon 6
 Two hours with Ms. Kazuko KOIZUMI
 "Energy of Wisdom, Design of Wisdom"
 To avoid a highly civilized but culturally poor living

Opening Address: Seiichi MIZUNO, JD president, president of IMA Co., Ltd.

I am a fan of Ms. Koizumi's publications, and in particular "Pictorial Book on Kitchens in the Showa Period" makes me feel so nostalgic. The book is an important means to look at our highly civilized but culturally poor living. I have been saying that knowledge has been accumulated in the 20th century, and the degree of civilization is enhanced, but culture is on the verge of extinction. I am wondering if we can enrich our lives with wisdom rather than just factual knowledge. I am looking forward to listening to Ms. Koizumi's

lecture today with these thoughts in mind.

Perspective: Kunio SANO, JD auditor, industrial designer
 Ms. Koizumi harshly criticizes society today, saying that people may be misled into believing that convenience and comfort mean richness in living. We should be careful to maintain balance and avoid making our day too highly civilized while poor in terms of culture.

The theme is "Energy of Wisdom, Design of Wisdom." Each person is innately equipped with the energy to utilize wisdom, and with this energy, we have built our culture. But today, we do not fully utilize our energy, because we have given ourselves over to economic and convenience-oriented ways of living. I would like to restore our energy and show a vision of society based on rationalism and culture.



講演

知恵のエネルギー、知恵のデザイン

小泉和子 家具・室内意匠史と生活史の研究者

産業革命は近代化だ、進歩だと習ってきて、そう思ってきましたが、私は最近、産業革命は人類滅亡の出発点だったんじゃないかと思うようになりました。産業革命が一方では資本主義を生み、そのあげくが世界恐慌とかグローバル化、非製造化、金融カジノ化と、人間をどんどん破壊する状況が世界中で起きているわけです。一方、科学技術の方でも、地球温暖化、公害、そして今や原爆、原発と起きています。このままいったら、人間が持つ技術・知恵によって地球規模で破滅に進んでいくのが、見えてきています。今や経済成長とか工業化社会へと進展といった呪縛から解かれなさいいけないのではないかと思うんです。

皆さんのほとんどは工業デザイナーでいられるので産業革命の路線の人たちだと思っただけですね。ですから、私が考えていることとはだいぶ違うんじゃないかと。

ないかと。今日は、こんな「知恵のデザイン」なんて引き受けて、大失敗しちゃったな、と思っています。どうぞ私が言っていることに腹が立ったら婆さんが言っていると思ってください。

開けてみれば粗大ゴミ

はじめに知恵のデザインということで、私はいつも「ものがないと知恵が出る」「買うと馬鹿になる」と言っているんですが、その面白い例を一つご紹介いたします。

世界遺産になった島根県の石見銀山がある大田市大森町は、鉱山を運営するため江戸時代、山麓に沿って一列つくられた町です。今は人口500人の小さな町です。過疎地ですから古い状況が残っていて、まち全体が昭和62年に国の伝統的建造物群地区になり、その中の御用達商人だった熊谷家住宅が平成10年に重要文化財に指定されました。この写真は熊谷家住宅 (fig.1) です。

平成13年に修復工事が始まりましたが、工事をするにあたって、家財道具の調査が必要になりました。打ち合わせをしたところ、市はお金を出せないというのです。山の中で、泊まる場所もないし、学生を調査に連れて行くにはかなりの費用が掛かるので、結局駄目ということになったんです。やむなく、それじゃ地元の主婦をパートでやらしてみましょと、声を掛けてもらったんです。そしたら7人が「はい」と手を挙げてきて、全くの素人を使っ

て調査を始めることになりました。その結果、最終的にはものすごく素晴らしいことになったのです。この話です。

大きな旧家でしたからさぞや立派な家財があると思っていましたが、開けてみたところ何もなかったのです。山のようにあることはあったけど、結局、粗大ゴミのようなものしかなかったんです。屏風の箱ばかりで屏風はない。食器類でも骨董価値のあるものは全くない。残っていたのは重箱とか膳碗ばかり、漆器は特別なもの以外骨董価値がなくてほとんど売れないんです。茶碗とか焼き物も、伊万里焼があると思えばびびが入ってるとか、金目のもの、マシなものはほとんど何もない状況だったんです。

それでもとにかく調査に取りかかりました。まず家財はすべて廃校になった中学の体育館に運んで、棚を組み立ててそこに積み込み、一点一点、写真を撮り、寸法を測って、私がつくったカードに書き込んでもらいました。名前や用途など分からなければ空欄でい

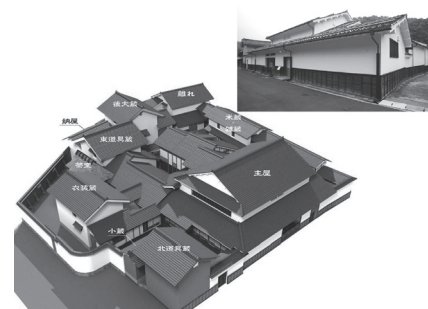


fig.1 重要文化財熊谷家住宅 (島根県大田市)
Kumagai Residence, Important Cultural Properties
(Ota city, Shimane Prefecture)

Lecture: Energy of Wisdom, Design of Wisdom.

Kazuko KOIZUMI, researcher in the history of living, furniture and interior design

We were taught that the industrial revolution had promoted modernization and progress in human history. But recently, I have begun to wonder whether the industrial revolution might actually mark the beginning of human ruination. I believe that we should break free of the spell of economic growth and progress in the industrialized society.

* Bulky waste

I always think "When we want, ideas come out," or "If you buy everything, you will forget that you can make things yourself." I would like to show you an interesting example.

This shows Omori town, Ota city in Shimane prefecture, which the Iwami Silver Mine, a World Heritage Site is located. In the Edo period, houses were built in a line at the foot of a mountain to operate the mine. There are only 500 people living there today. In 1987, the whole town was designated by the government as a traditional structure group, and in 1998, the Kumagai Residence, proprietor merchant of the feudal lord, was designated as an important cultural property. (Fig. 1)

Restoration work began in 2001. Prior to the construction, furniture and utensils had to be examined. But the city government could not allocate any money for the examination. As it is located in a mountainous area with no tourist accommodations, I could not bring students to stay there for the research work. I asked city officers to recruit housewives as part time workers. We began the research work with seven local women

Voice of Design トークサロン 6 小泉和子さんと2時間



fig.2 家財道具の調査・整理・再生を地元の主婦たちが行った
Local housewives conducted the research, classification and restoration of home furnishings.

いと言って始めました。

これが家財調査をしているところです (fig.2)。

ところがどれもこれも汚れに汚れてドロドロになっているのです。実測する前に綺麗にしなければなりません。衣類なども真っ黒になったものがあります。学生だと「先生、汚い、これ捨てていいですか」と言うんですけど、そこが主婦です。私が「あまり汚いのは捨ててもいいわよ」と言うと、「いいえ、洗えば大丈夫ですよ」と、洗濯機をガラガラ回してどんどん洗うんです。どんなに汚くても嫌がらないで、たつたとやる。膨大な家財の山がこうしてどんどん片付いていきました。

遠いところですから私は月1回くらいしか行けません。そうすると分からないものはだんだん自分たちで調べるようになりました。そうしているうちに自然に得意分野が分かってきたので、飲食器・衣類・酒造関係・宗教関係・趣味関係と2人ずつの分担を決めました。こうしてパートの主婦たちによる

調査を終えました。彼女たちが達成感を持つようにと調査結果を彼女たちに書かせて報告書をつくりました。そのあと市民の要望で市民対象に調査報告会もしました。みんなも旧家だからきっと立派なお道具があるのじゃないかと思っていたのです。そこでいろいろとパフォーマンスをして誤魔化したのです。これもとても面白かったのですが、これは省略します。

知恵と手を出せ、カネ出さな

さて次は公開に向けての準備です。建物が修復できても展示するものがまるっきりありませんから、空き家同然になってしまいます。こんな場合、普通、展示業者が入って、言っちゃ悪いけど

面白くない展示をやるんです。ここにも展示業者が来てやらせろと言ったそうで、市役所が参考のため見積もりを取ったらジオラマで1体百万円とか言ったそうです。

そうでなくお金を掛けずに知恵と手だけでやってみようと考えて「一銭もお金を掛けずに、このボロ全部を使って展示をつくらない？」とみんなに持ちかけたところ、みんな面白がって大賛成で、早速やりだしました。

最初にやったのは古布団から座布団100枚です。オープンして講演会なんかをするときに、全部和室ですからたくさん座布団がいるんです。布団がいっぱい出てきたんですけどカチンカチンになっていつのしか分からない。明治の



fig.3 古布団の再生
Reusing old bedding

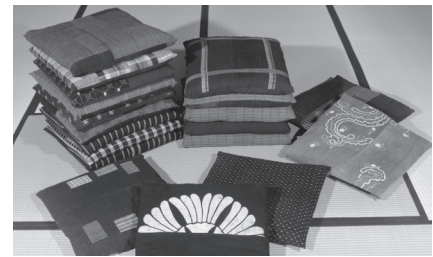


fig.5 古布団から座布団を100枚つくった
Making 100 floor cushions reusing old bedding



fig.4 古布団をほぐして、ガフは洗濯し、綿は太陽に干す
Unpicking old bedding, washing their covers, and sun-drying the cotton inside.



fig.6 杜氏用だった布団の再生
Reusing bedding used for sake brewers

who were amateurs in the work. As a result, the work brought a wonderful success.

The house was huge, and there were enormous numbers of articles, but in contrast to my expectations, there were few valuable objects to sell. There were boxes of folding screens but no contents. It was like a store house of bulky wastes. Objects and clothes were all dirty. These housewives washed them one after another without throwing any of them away.

There was a gymnasium of a nearby junior school house which is not used today. We installed shelves there and gathered all of the household articles there. As we inspected each item, we took photos, measured the items and wrote identifying cards which I had prepared. In this way, the anonymous piles of articles were identified and cleared. Figure 2 shows the housewives at work.

I could visit there only once a month so the women began

researching on their own to determine the names and uses of the articles. To help them gain a sense of achievement, I encouraged them to write research reports so that we could compile and publish a final report. Then, at the request by local people, we organized a meeting to report on our research findings to the citizens.

* Give us your wisdom and hands, not money

The next stage was to prepare exhibits to turn the house into a museum. I proposed that we would make them ourselves. The members were excited about the idea, and began working immediately.

First, we made 100 floor cushions out of old futon (bedding). We need floor cushions for lectures and other meetings, because all the rooms are tatami matted. There were many futon in closets. They were stained, partially broken, and the cotton inside was hard.

途中くらいものですかね。押し入れを開けるとどたっと落ちてきて、中からネズミの死骸が一緒に出るくらい、真っ黒でドロドロでした。「どう、これで座布団をつくってみない？」といたら「やってみよう」とボロ布団の再生を始めたのです (fig.3)。

向こうでほぐしているでしょ。こうして綿を出して、ガワは解いて洗い、中の綿は校庭に広げて干して、汚いところは捨てて、いいところだけを集めたんです (fig.4)。ガワは藍染めでしたからドロドロを洗うとすごく綺麗な藍色が出てきました。良いところだけとってパッチワークでカバーにして、ファスナーもみんな家から古いものを探してきて付けました。すてきな座布団が

百枚できました (fig.5)。

つぎは体験学習用の布団づくりです。いやに細長い布団がたくさん出てくるので、子ども布団かと思うと長さは長い。いったいこれは何だろうと、調べたら杜氏さん用の布団でした。家族が使っていた木綿の布団が傷んでくると、いいところだけで細い布団にして杜氏さん用にしたんですね。狭いけれども、それを部屋にびっしりと敷くんですね。そうしていたことが分かって面白かったですね。子ども用ならいいので、今度は杜氏さんの布団のマシなところをあつめて細長い布団を作りました (fig.6)。酒造のところで杜氏さんの暮らしとして展示もしてあります。

この家は商家ですから、土間と奥を

仕切る暖簾があるわけですが残っていない。紋がついた布団があったので、ほぐして紋のあるところを使って暖簾をつくりました (fig.7)。

つぎは鏡台掛けです。鏡台や姿見はあるけど、鏡台掛けがない。さすがにそれだけは紋を染め抜いたのをどこかに注文するかなと思っていました。ところが「縮緬の長襦袢があるから、それで作れます」と言うんです (fig.8)。長襦袢が黄色くなって、染み染みで、使いようがない。「染め粉がたくさんあるから、それで染めましょう」と。店じまいをする薬局でもらったみやこ染めがあったのです。気がつくともういっとうのものもらっておいたんです。それで赤く染めて紋は刺繍したんです

(fig.9)。鏡台掛けは2つできました (fig.10)。

前の信玄袋はもうボロボロでしたけど、房のついた紐と下の台は使えたので古い麻の袴の良いところを使って作り直した (fig.11)。

中央がくくり枕です。箱だけあったから、これも古い絹の着物地を染めてつくったのね。

こうして何とか復元してこの家の最後のおばさんの嫁入道具一式をこうして一つの部屋に展示しています (fig.12)。



fig.7 暖簾。紋がついていた古布団のガワを利用した Split store curtain. The part the family crest on the cover of old bedding is used.



fig.9 長襦袢をほどいて赤く染め、紋は刺繍した Unpicked kimono slip is dyed red, and the crest is embroidered.



fig.11 信玄袋は古い麻の袴からつくった Pouch made by reusing a Japanese male skirt made of linen.



fig.8 黄ばんだ長襦袢から鏡台かけをつくる Mirror stand cover made of a kimono slip



fig.10 鏡台かけ。手前は信玄袋、中央はくくり枕 Mirror stand cover. Pouch in front, and a cylinder-type pillow in the center.



fig.12 婚礼道具の展示 Furnishings for a wedding

They began reusing them (Fig. 3). They removed the covers, and washed them. They dried the cotton in the yard, threw away unusable parts, and collected only usable parts (Fig. 4). The covers were indigo dyed, and after washing, the beautiful indigo blue came out. We used only clean and undamaged parts to make patchwork. Members brought used fasteners from their houses and made 100 patchwork cushion covers (Fig. 5).

Then, we made bedding for children to use when they would stay there for experiential activities. We found narrow and long bedding. They were used by master sake brewers when staying there for the brewing period. From these items, we made narrow and long bedding using only the good parts (Fig. 6).

As it was a merchant's house, there should have been a short split curtain to divide the earthen shop floor and the household portion but we could not find it. We eventually found a futon on which

the family crest was printed, so we used that part to make a split curtain (Fig. 7).

This is the cover of a mirror stand (Fig. 8). I wondered how to prepare its cover. One member said that she could make one out of a kimono slip made of crepe. The kimono slip was full of spots and I thought it would not be useable but she said she had lots of dyestuff that she had obtained from a drugstore which was closing down. We dyed the cloth in red, and stitched the family crest (Fig. 9).

The small sack was used up, but the string with tufts and the base could be used. So, we remade one using a part of an old Hakama (men's formal divided skirt made of linen) (Fig. 10).

The center in the photo is a cylindrical pillow. We made this after dyeing silk kimono fabric (Fig. 11).

We managed to restore a full set of articles brought by the last housewife living in the house at the time of her marriage and show

Voice of Design トークサロン 6 小泉和子さんと2時間



fig.13 子どもの下駄の再生
Restoration of geta,
wooden clogs, for children



fig.14 下駄の再生作業
Restoring geta



fig.15 完成した下駄。模様はトレペに写しておき同じ柄を描いている
Restored geta. The original pattern was copied by transparent paper, and the pattern is reproduced on the geta.



fig.16 重箱に歳時や法事のごちそうを詰めて展示
Food boxes filled with seasonal foods or foods for memorial services



fig.17 ごちそうは布のぬいぐるみなどでつくる
Food items are cloth objects stuffed with cotton



fig.18 季節毎の食事をつくって展示
Displaying the meals typical of each season



fig.19 甘鯛。工夫が施され、本物らしくできている
Tilefish made realistically with various inventions

これは女の子の下駄です。この家には色気のあるものが何もない。たった一つ赤いのがこの下駄でした。あまり履いていないけど、はがれちゃったのね (fig.13)。そこで鼻緒を一旦とって、模様をトレペで写しておいて (fig.14)、全部塗って、トレペと同じ柄を描いたわけです (fig.15)。

こうやって再生していくと、みんなそれが面白くなってきて、どんどん熱中しちゃいました。一番すごいのは次のこれです。

湧き出る知恵

昔行事で使った漆器の重箱が山と残ってました。重箱を使ったお祭りやお花見、法事のご馳走を自分たちで調

べたんですね。それをどう展示するか。一つはどこの博物館も使う食品サンプルがあります。ただご飯や秋刀魚など、よく食堂で使うものは既製品があるから割と安いですけど、特別注文は高い。それと今ではどこの博物館でも使っているのも面白くない。お金を掛けない方針ですから「ぬいぐるみでやってみない？」と言ったんです。最初に私が思いついたのは、さつま芋の天ぷらね。これは割と誤魔化せると思ってたんですけど、さつま芋を木目込でつくって真綿でくるんで、色をつけたらそれっぽくできるんじゃないかなと思って、始めさせたの。これが上手くいったので、ぬいぐるみでつくろうということになったんです。試作したも

のを東京に送ってもらって「ここを直したら」と送り返したりするうちに、自分たちでいろいろと工夫して、どんどん上手になりました。お刺身もお吸い物もあるのよ。これ、ぬいぐるみとは思わないでしょ。すごいでしょ (fig.16)。こうやってみんなで作るわけですよ (fig.17)。最初は布のぬいぐるみでやったんだけど、そのうち、いろいろなものに気がつくようになって、発泡スチロールだとか、ボロとかの材料を見つけるようになったんです。何でも使えるものに見えてきちゃうのね。そういうことは経験がありがたいと思いますけど、みんな目を皿にして何か拾ってきちゃうんです。

これはヘカナベといって石見地方で

them in this exhibit room (Fig. 12). This is a pair of wooden clogs for a girl. It was not worn out, but the surface design had faded (Fig. 13). So, we removed the strap copied the pattern with transparent paper, and repainted the clog top (Fig. 14 & 15).

* Wisdom coming up

There were many tiered food boxes. We researched what kinds of food were prepared for various occasions using these boxes, such as festivals, cherry blossom viewing picnics, memorial services for the deceased persons. We did not want to spend money on food samples and I proposed that we make food items like stuffed toys ourselves. They sent their trial samples to me in Tokyo, and I made suggestions. While repeating this process, members' ideas and skills became increasingly sophisticated. We have sashimi samples and

even soup (Fig. 16). These are all hand-made (Fig. 17). Beginning with stuffed samples, members found styrene foam, rags and other items to be useful for making samples. This one-pot dish is an example of what is a typical dish in the area. This is the kitchen. Seasonal meals are exhibited (Fig. 18). This is named a fish box and the bottom of it is a drain-board. It was used to carry fish. The fish would be laid upon a bed of cedar branches and then covered by a lid. This is red sea bream (Fig. 19). We named these housewives "Women of the House" and asked them to be engaged in the management of the museum.

* Japanese Houses and Furnishing

Another important element in the Kumagai Residence is furnishing. Furnishing a house in each season is a great feature of Japanese culture. Because of the cost, all houses of important national

食べる鍋です。ここは台所です。季節季節の食事をつくって展示しています (fig.18)。ご飯は何がいいかって、タオルが一番ご飯に見えるの。

これは魚箱といって下がすのこになっています。昔は生の魚を親戚などに招かれたときに持って行ったものですが、そのとき底に杉の葉を敷いて、お魚を入れて、蓋をして持って行く。これは甘鯛です (fig.19)。本物らしくできているでしょ。

食べ物だけでなく、小鳥もつくり、鳥かごを修理して展示してあります。

こうして力をつけた彼女たちを「家の女たち」と名づけて、公開後も管理運営に携わってもらっています。

日本住宅としつらい

もう一つ熊谷家住宅で重要なことは「しつらい」をしているということです。国は重要文化財の住宅でもしつらいということを考えていないのね。だからどんな住宅でも一年中同じなんです。洋館だったら家具を置き、日本家屋だったら夏は襖を簀戸(すど)にかえ、御簾やすだれを掛け、籐むしろや網代を敷く、冬は毛氈とか絨毯を敷くというふうにするべきだと私は文化庁の委員のときからずっと言っているのにちっともやらないんです。一つは補助金をつけなければならぬからです。季節季節に応じたしつらいをすることが日本住宅の美しさなのに、それをしないからみんな西洋まがいの家が好きに

なっちゃって、今や日本住宅は風前の灯火です。重要文化財になっていても、ただ畳の部屋が並んでいるだけだから、さっぱり面白味がない。本当はしつらいをすることによって、日本住宅の美しさが発揮されるわけです。

そこで太田市の役所の人に「どこからお金を見つけてくる方法はない？」と言ったら、宝くじ協会に申請して、うまいこと3千万が取れたんです。

それで御簾から敷物から照明具などをつくりました。となるとしつらいをした室内の面白さを味わってもらいたい。それで座敷を使って夏と秋は「雑もの茶会」を、春は2階を使って「春高樓で花の宴」を、冬は座敷と台所を使って「冬に学ぶ」というイベントをしています。「雑もの茶会」は各自、自分の茶碗を持ってこさせるの。利休が佗数寄を大成する以前、京都で庶民たちが台所に集まって自分の勝手なお茶碗で飲んだ時期があるんです。安い御茶を使うので泡が雲の脚のように消えてしまう、ということで雲脚茶会と呼ばれて馬鹿にされたのですが、それに因んでやってみました。子どものご飯茶碗でも丼でもどんな茶碗でも良いのです。これで御茶を飲んでからひとつひとつパワーポイントで見せてコメントするのですがこれが大人気です。

懐石料理も菓子も「家の女たち」が作ります。これもなるべくこれまでにないものをつくるようにとっているので、気が利いた料理とお菓子をつ

くります。献立表も自分たちで書くんですよ、絵が入っていてすてきでしょう (fig.20)。

これは夏の茶会の様子です (fig.21)。冬は五色の毛氈を敷いて、灯台(電気ですが)を立てまわしてとても素敵で



fig.20 雑もの茶会。主婦たちは展示公開後も管理運営に携わっている
Tea party event. Housewives participate in house administration even after the exhibition



fig.21 夏の茶会。季節毎のしつらいをして日本住宅の面白さを味わう
Summer tea party. Giving different furnishings in each season to enjoy the way of living in a Japanese house.

property are furnished the same all the year round. So I asked the city office if we could find some financial assistance. Then the office applied to the Japan Lottery Association for its subsidy, and obtained 30 million yen. With this fund, we had bamboo blinds, carpets, lighting fixtures, and so on to change furnishing in each season. We organize tea parties in summer and autumn, and a flower-viewing gathering in spring, and "learning in winter" in winter. "Women of the House" prepare tea-ceremony dishes and sweets. They write menus with illustrations (Fig.20). This shows a tea gathering in summer (Fig.21). In winter, a five-colored carpet is laid out and a lantern is lit.

In this way, housewives in the local town researched many things in their community and learned a lot. They now serve as guides in the museum and share the deep knowledge that they acquired through the work. This is very important.

* Japanese culture is the refined culture of the poor

Studying the history of people's living, I reaffirmed the importance of the culture of traditional livelihood of Japan. The Japanese have refined the culture of poor living. Historically, the means for nations to become rich have been war or trade. But Japan, thanks to its historical and geographic conditions, had experienced neither of these until its early modern period. No nations waged war against Japan across the seas, due to impossible logistics. The Japanese archipelago is rich in nature. If people worked hard, we could manage to survive even though we could not enjoy a luxurious life. The climate is temperate, with much rain and humidity. It has four seasons, good for growing plants. Agricultural productivity is high. Forests occupy 70 percent of the land. Natural resilience is also strong. It is surrounded by the seas, and is rich in water sources as well as animal species. Earthquakes

Voice of Design トークサロン 6 小泉和子さんと2時間

す。春と冬については省略しますが、是非来てください。

このようにして地元の主婦たちが自分たちでいろいろ調べて、知らなかったその土地のことも知る。その人たちが今、中で案内をしていると、自分たちが調べたことだから身になっていてみんなに内容深く説明できるんです。地元の人と文化を活かすこと、これは重要なことだと思います。

展示に関してはみんなの知恵と手だけではできないこともあって、多少は大工さんに頼んで直してもらったところもありますけども、それ以外お金はほとんどゼロでできました。こういう一つのやり方を少しお話したわけです。

日本文化は貧乏文化を洗練

この後は方向を変えて、日本の伝統文化と、その中で今どう生きたいのかということをお話します。

今、私たちの社会では金儲け第一主義をはじめとして、さまざまなよくない問題が起きています。私たち日本人はこれまでの生き方を変えなきゃいけないのではないのでしょうか。

歴史的なことを調べて思うのは、伝統的な日本の生活文化の重要性です。日本は貧乏文化を洗練した国なのです。歴史的に見ると、国が金持ちになる手段は、戦争か貿易かですね。今まで世界の中で金持ちになった国は、そのどちらかによってなっているのです。ところが近世までの日本はどちらもな

かったのです。歴史的な条件と日本列島がおかれた条件によります。ユーラシア大陸の東に位置する島国ですから、近代以前はわざわざここまで攻めてくることがなかったんですね。海を渡って攻めてくるには補給が続かなかったんです。蒙古が何回か来ましたが、蒙古軍内部の問題や台風の襲来などによって侵攻するまでに至らなかった。こちらからは秀吉が侵略を仕掛けましたが失敗し、その後、外国を侵略するという動きはなかった。貿易も全然なかったわけではないが、支配階級が独占していたため大規模なものにならなかった。

これは日本列島が恵まれた自然なので勤勉にしてさえいけば、贅沢はできないけれどもそれぞれ生きていけたからです。気候は温暖ですし雨もたくさんある、湿気もある、四季に富む、植物の生育には適しているし、農地の生産力が非常に高い。豊かな自然と、森林、今でも日本は森林が7割あるんです。自然の復元力も非常に高い。海に囲まれ水もきれい、動物も豊富だと。地震とか台風もありますけれども、それが壊滅的に日本全部を潰すことはないという。

このため人々は自然を破壊しないように、今の言葉で言うと、サステイナブル、持続可能な社会的システムを文化として育ててきているわけです。里山がそうです。茅葺き屋根なんかサステイナブルなやり方でしょ。茅葺きの萱場をつくっておいて、順次屋根を

葺き替えていく。

リサイクルも日本人はものすごく上手です。下肥使うのも究極のリサイクルですよ。そういうことが日本はきめ細かに発達していた。それを保つ共同体があって、共同体にはもちろん問題もあるわけですけど、とにかくそれによって生きてきたわけです。

それでやってこれたというのは恵まれた自然だったからで、自然は命綱なのです。このため自然を崇拝することが日本の文化の大きな特徴です。自然と共にあって、自然を破壊しないで人々が労働をして暮らすということが暮らしと人々の考え方の隅々までしみ込んでいる。

自然を尊ぶということはデザインの面からもわかります。日本の造形文化の大きな特徴にアシンメトリーとありますが、これは自然の模倣です。自然にはシンメトリーのものってない。ほとんどアシンメトリーでしょ。自然への同化がアシンメトリーなんです。アシンメトリーを造形の基準にしているところほかにはあまりありません。逆にシンメトリーが多いんです。シンメトリーというのは、自然に対立するもので、人工的ということです。人間の力を示すものです。人工的ということは日本ではあまりいい言葉じゃないけど、中国とかヨーロッパは人工的というのは決して悪いことではなく、いい言葉なんですよ。

日本は人工的より自然の方がいい。

and typhoons often hit the archipelago, but never destroy the whole country.

Japanese people have lived carefully, trying not to destroy nature. They have developed a sustainable social system. Village forests are a good example. So is the thatched roof. Grasses are dried and kept for the next time they would be needed to thatch a roof. The Japanese people are good at recycling used things. And we have practiced recycling on the community level.

It is because the nation has been gifted with nature. Nature worshipping is a distinctive characteristic of Japanese culture. The sense to value nature can be also seen in design. A feature of Japanese design is "asymmetry." Nothing is symmetrical in nature. There are few other nations that apply asymmetry as their design standards. Symmetry is against nature, so it is artificial. Japanese people prefer natural to artificial. We apply a natural scene as it is, in

a refined manner. Typical of this are patterns on urushi lacquerware. We favor primitive things, but we enhance them, making them beautiful. We eat sashimi but we do not eat raw fish as they are. We have raised the culture of the poor to a level of elegance.

* Choice in Lifestyle

Living in an industrialized country, we must choose our lifestyles. What is a good choice? I think the living standards in the 30s in the Showa era (mid-1950s to 1960s) suit the Japanese people. Around that time, houses were mostly wooden Japanese style houses and average households had the so-called "three electric appliances," a washing machine, TV set and refrigerator. Rooms were open without privacy, and there were no air-conditioners. As service industries were not so well developed, housewives had to hand-make many things, and children had to help their mothers.

模様なんかも自然をそのまま、例えば漆器なんかの模様も枝の向こうに月があるという、抽象化しないで自然のままに使うでしょ。日本の文化は何でも自然のままを非常に洗練していくわけです。茶室なんか極致ですよ。プリミティブなものを尊びますが、しかしプリミティブなままじゃなく、洗練を重ねて美しくしています。お刺身だって、生で魚をかじってるわけじゃない。きれいに切り揃えて、つまを添えて器に盛る。これが日本の文化の一つの特長ですから、これを私たちは忘れちゃいけないと思うんです。日本は貧乏文化を洗練してきたということです。

おまかせにしない生活

そうは言ったって、今さら機を織って着物をつくるわけにいかないし、江戸時代みたいに天秤を担いで歩くわけにもいきません。産業革命以降の世界に生きているわけですから、この中でどうするかというときに、やはりそれは選ぶ、選択することが、今の私たちに重要じゃないかと思います。

じゃあどのくらいかと言うと、私は昭和30年代くらいの暮らしがいいかと。さまざまな問題がありますから、すべてがいいというわけじゃありませんが、大雑把に言えば生活水準の場合、だいたい30年代くらいが日本人には合っていると私は思うんです。日本人には金持ち文化は合わないのです。

どんな暮らしかという、オール電

化じゃなくて半電化、あるいは一部電化。洗濯機とかテレビとか冷蔵庫ぐらいいはあっていいんです。昭和30年代はそれが三種の神器といわれた。住宅はまだ木造和風住宅で、プライバシーもない、エアコンもない。非常に開放的です。サービス分野もまだ発達していません。今は、何でもサービスのことが非常に発達して、クリーニング屋さんから宅配便、あらゆるところにサービスがある。食べ物屋さんも食堂もレストランも、ホテルも何でもたくさんありますから、親戚が来てもその家に泊まらないでホテルに泊まるとか、そういったことがきめ細かに発達していますよ。食べ物なんか、できあがったものも買えるし、途中までできたものもレトルトでも何もある。昭和30年代は、そういうことがまだほとんどなかったわけです。ですから何でも家の中で手で作っていた。子どももいろんなこと手伝わなきゃいけない。いろんな家事をするというのは、人間を非常に育てるわけです。手を使わない、身体を使わないと、気がつかない人間になってしまいます。

昔は家の造りも町も、何もかも不備で隙間だらけでしたから、つねに気を遣って人間の方で手を加えなくては暮らせなかった。その中で感性が育てられました。家の中で、襖やなんかをちゃんと閉めないで「閉めろ」と怒られて、私たちの時代はすごくうるさく言われたんですよ。ところが次の世代になる

とあまり言われなくなりました。今やトイレの蓋まで自然に開いたり閉まったりするんですからね。誰がデザインしているのかしらないけれどちょっと行き届き過ぎ。あれは身障者をつくっているのかと思いますね。今みたいな暮らしは、病気の人や高齢者にはいいかもしれないですけど、人が育たないですね。

生活能力が衰えるばかりです。私の「昭和の暮らし博物館」みたいなところでも、昭和の家事ができる人がいなくなっているんです。60歳を過ぎていても駄目です。もう本当にいろんなことができなくなっているのね。「庭の掃除をして」と言えば、うちに庭がなかったから掃除なんてしたことないし平気で言います。包丁も使えない。大の大人が紐がちゃんと結べない。

せめて30年代くらいにやれていた家事程度はみんなができるということが大事なんです。家事というのは火や水を使い布を使い食べ物を使いと、ありとあらゆるものを使うわけですよ。ですから何もできないでただ食べるというのではなく、例えば葉っぱならどうしたらどうなるか、しおれるか、煮えたらどう、茹でたらどうなる、ということが、それこそ一つの中に宇宙があるわけですから、それを知ることがまず大事。

私は20年くらい前『昭和の家事』という記録映画を撮影したんです。映画に完成したのは3年前ですが、それを観ると、おはぎつくるのだって二日仕

By helping with housework, children could acquire many skills needed in living. By using their hands and bodies, they would grow to be considerate to others' needs. Parents used to tell children how to behave. When I forgot to close a sliding door, my parents would tell me "close the door." But people of the next generation were not so strictly disciplined.

In post-war Japan, people have been misled to believe that convenience and physical comfort enrich our living, and people have tried to avoid doing things they don't like. I think this is wrong. Having convenience, comfort and many things at hand, people today do not think that they are happy. Rather, they think something is wrong.

It is proven by the recently ignited interest in life during the period of the 30s of the Showa. What makes people attracted to the life of that time is the quality of human relationships. How did such

close relationships among family members and community people develop? We developed those relationships through living an inconvenient and not so comfortable life, enduring doing what we did not like to do. We had to develop favorable human relations through family life, community life, school life and working life interacting with many types of people. The skill to communicate with other people cannot be obtained easily. We cannot develop communication skills just by restoring the family life and community life of that time. We must develop human relations on an equal basis beyond kin and community relations, having solidarity with other people while maintaining our own individuality. We should be satisfied with the standard of living in the 30s of the Showa era, and find pleasure in making things ourselves, and devise ways to create things with our own wisdom. We should once again live that way.

Voice of Design トークサロン 6 小泉和子さんと2時間

事です。つくるとなると家中のイベントなのね。あんこはどうなるか何はどうやったらどうなるかと、さまざまな道具を使い、やっとおはぎができて、みんなで食べる。ところが買ってきたら5分もあつたらおしまいでしょ。何でも買ってやっていくことが、何にもそこに残らないんですよ。

戦後の私たちは、便利・快適が生活の豊かさだと勘違いしてきたことと、嫌なことをしたくないということ、これが大きな流れですね。でもこれは間違っていたと思います。便利・快適・たくさんモノを手にしたけど、幸福になってない。なんだかおかしいと思っている。

それを示すのが昭和30年代ブームです。『三丁目の夕日』なんかが人気になっていますが、人々がどこに感動しているかと言えば人とのつながりです。あの映画の監督は若い人なのでしょう。あした人のつながりはどうやってできたのか知らないんです。自然にあったものだと思っている。

あのつながりはどうしてできたのかと言えば不便で、快適でなく、嫌なことを我慢してしていた中でできたものなんです。30年代の暮らしを保つことは非常に骨が折れるんです。人間は集団の中で生きる生物ですから、社会生活を営む上では家族をはじめとして地域や、学校、職場などの中で人と人が良好なコミュニケーションを持っていなければならない、その能力は楽して

は育たないのです。とって家族とか共同体への原則のない単なる復帰では解決できないわけですから、地縁とか血縁を超えた平等な人のつながりとか、個はちゃんと守りながらもみんなで連帯していくとか。30年代ぐらいの暮らしで足るを知るとか、人とか外のものに頼らないで自分で考えてつくり出すことは面白い楽しいことでもあるわけね。そういう生き方を、私たちはもう一回ここで考えなきゃいけないと思うんです。

もう一つは、大きな問題で政治に今、関心を持たないといけないと思うんですよ。政治に関わらないと私たちは絶対に幸福になれないと思うので、それもちょっといいたいんですけど、話が二つになるのでここまでにしておきます。

対談

マニグリエ・真矢（聞き手） お話の中で「人」と「働く」という二つのキーワードがありました。働き者の日本人というイメージが強いんです。ただ、ちょうど先週九州の高千穂で「夜神楽」というものがありまして、その練習風景は男性ばかりなんです。今、日本で、変わらなくちゃ、または守らなくちゃと分か



りながら、伝統文化がなくなる中で、21世紀でそれに替わるものが見つからない。後ろを見るだけで、新しいものを見つける努力がまだないように感じます。

りながら、伝統文化がなくなる中で、21世紀でそれに替わるものが見つからない。後ろを見るだけで、新しいものを見つける努力がまだないように感じます。

小泉和子 あなたへの答えになります。暮らしたレベルとして、さきに言ったように昭和30年代くらいがいいのではないかと。震災のとき、電力会社や政府が、電気がなくなると脅したじゃないですか。けれど、私は戦争中を生きましたから電気がなくてもいろんなことをやれる。電気はなくてもやっていたという自信がないからそれに押されてしまう。

私から見ると、なんで、ということに若い人が恐怖を持っているんです。例えば、賞味期限なんて自分が決めればいいんです。学生が来たからジュースを飲ませたのね。飲み終わったあと「あ、先生、これ賞味期限が切れてる」と大騒ぎしている。日本はきめ細かくそういうことが行き届いて、それに支配されすぎていると思う。それを撥ねのけるのに私がよくいうのは、洗濯機はいいけど乾燥機は止めようとか。一人ひとりが自分の方針を持って生きていかなければいけないのです。

日本の自然は勤勉に働くことで保たれてきた。私が古いところに戻れというのは、30年代くらいのもので、その中の暮らしくらいが日本人には合っているということです。お金があっても使うノウハウがない。バブルのときに

Dialogue

Kazuko KOIZUMI and Maïa MANIGLIER, president of exprime inc., creative director

Maïa MANIGLIER: I visited Takachiho in Kyushu last week and observed the practice of yokagura, Shinto music and dance performed all night long. It is a long-held traditional performance there. Traditions are being lost in other areas, and even though people think that they have to create new traditions to replace the old ones, they don't seem to be making the effort to establish new ones.

KOIZUMI: It may not be a direct reply to your comment, but I see things from the point of daily living. After the nuclear power accident, the electric companies and the government threatened that there would be a shortage of power without nuclear power

plants. People are easily affected by such comments, because they, mostly young people, have no skills for living under electricity shortage.

Another example is that young people are too concerned about the freshness dates of food and drink. Every person should have a policy in living to not be affected by what the label says.

MANIGLIER: While chasing after the western way of living, Japanese traditional ways of living were lost at some point.

KOIZUMI: Certainly, I often wonder why Japanese people dislike Japanese ways of living. Nature worshipping is rapidly declining. I hope that you will tell us, as a foreigner, what elements of our culture we should maintain or restore.

MANIGLIER: When I met the Shinto priests in Kumano and Takachiho, they said that young people were not sympathetic to nature worship. Unless they understood and became convinced

何も残してないじゃないですか。そこへいくと西洋は金持ちになった国で、残し方の文化があるの。海水浴にいても西洋人は海辺で寝ているじゃない。私たちはせっせと泳いじゃう。そういう意味で、その国その国にやり方がある。けれど未来にどうするかというと、ちょっと分からないわね。

真矢 日本の方は、昔何もないところでもものをつくって工夫して遊んでいた。日本の家が季節ごとにいろんな催し物があって、ヨーロッパでもカーテンも食器も替える。それが2LDKが普及したとたん、なんでなくなったんでしょう。戦後の忙しさと西洋を追いかけの中で、どこかの世代から日本のものが失われてしまった。

今、学校で子どもたちに「いただきます」「ごちそうさま」といわせないそうなんです。「お金を払っているからいわせないで下さい」と親から苦情が出たと伺って、ごちそうさまの意味がその親に伝わっていないと思いました。自然崇拜という素晴らしい考えは、今、海外に伝えられる大事な資産だと思うんですが。

小泉 確かに、なんでこんなに日本人で日本のものが嫌いなんだろうと思う。デザイナーもいけないんじゃないか。産業革命がイギリスで起こったから、世界全体で西洋が目標になったのは仕方がないけど。中国も今、どんどん生活のスタイルを変えている。先に進んだ文化への憧れが強いんでしょう

ね。でも日本は突出しています。自然崇拜だったのに日本はどんどん壊しているでしょう。

真矢 でも、まだちょっと残っているうちに、なんとかその意識を。

小泉 そうそう。外国人から見てどうしたらいいんでしょうかって教えてちょうだい。ただ私たちが日本文化といっているものには、かなり行き詰まった状態のものが多い。振袖なども着物の歴史の中では行き詰まった形です。西洋でいえばバサルススタイルのようなものです。戦後なぜ洋服に変わったかと言えば、そんな窮屈なものは着られないからです。いわゆる和服は非常に不自然な衣服です。帯はきつくて重くて動きづらい。しかし後ろからは他人の手で簡単にほどける。裾が重なっているから歩みにくい。逃げたくても逃げられない。そのくせ裾はオープン。強姦しやすい服です。卒業式で学生が着ますけど、窮屈さに耐えられなくて研究室に戻ってきてすぐ脱いでいます。いわゆる着物は武家の女性とか遊女といった生産しない、働かない女性の衣服がもとで、ただ美しく、しとやかに発展してきたものだったのです。戦争中にもんぺやズボンといった活動的な衣服を経験したことで、戦後も着物には戻れなかった。

しかし私たち日本人に洋服は最終的に合わないんですよ。洋服は八頭身で脚が長い西洋人の服です。六等身か七等身の人に合う服は、着物のように下

を大きくして、体の線を出さないとかね。そうしないでひたすら西洋をモデルにやってきた。その結果、小顔になりたいとかいっている。また気候も生活習慣も異なる。暑い夏の背広のように矛盾が生じている。

それと着物と洋服では構造が違う。日本の着物は直線断ちなんです。しかも布には「耳」があるでしょう。端っこを切らないで使うから、いくらでも仕立て直してリサイクルできる。これは着物文化の優れた面です。衣服改革をする場合、これを活かして、活動的で、生活しやすく、日本人を美しくする衣服を創出しなければならなかった。それをせずただ西洋の真似をしてきた。三宅一生の服も西洋人が着たら美しいけど、日本人は丸っこいから似合わないのよ。三宅さんが外国に輸出して外貨を稼いでくださるのは大いに結構ですけど。

真矢 私は最初に着物を着たとき、私のくびれはどうしたのと呉服屋さんにすごく怒りました。いっぱいタオルを入れられて。

小泉 今はあんなことして補正するんですからね。昔は普通そんなことをしないで着ていたのよ。今は洋服のプロポーションが頭にあって、それが美しいと思うからじゃない。

真矢 熊野や高千穂の宮司さんとお話をしたんです。自然崇拜は日本人なら誰でも分かるという訳ではなく、納得しないとできなくなったんです。最近

about nature worship, they would hardly accept it.

KOIZUMI: I can say that what we think of as typical samples of Japanese culture do not, in fact, suit contemporary life. Take for example, the kimono. Why were the kimono replaced with western style dresses after WWII? It is because people did not like to wear such a tight-fitting dress. During the war, women were forced to turn their kimono into trousers-like clothes to allow active movements. After the war, women no longer wanted to wear kimono for daily living. However, western dresses do not suit us. They are for western people's type of physique. We should have designed dresses that would suit us and that would show the beauty of Japanese women.

MANIGLIER: Yes. When I first wore kimono, the shop owner said that my waist was too slender, and put a few towels around my waist.

KOIZUMI: In the past, women had no curves and did not need to apply towels to wear kimono.

MANIGLIER: It is said that an increasing number of young people travel to look for their own gods. Once they find one, they visit the shrine and donate money. There is a tendency in the world that people with spiritual loneliness resort to shamanism for salvation. It is a good point of Japan that there are places where people are able to find spiritual security. Japan has dominated the world by exporting industrial products. Now, people in the world admire Japanese manga. In seven years' time, the Japanese can stand on a stage to show their strong points at the time of the Olympic Games.

KOIZUMI: I hope that the message of peace contained in the Constitution of Japan can present a strong appealing message at the Olympics. We don't know what will happen to our

「マイ神社」を探す日本人が増えたといわれたんですね。地方から来て今は都会に住んで、神棚も仏様もない家に育った人たちが、独りぼっちだからと、自分だけを見てくれる神様を捜しに旅に出るんです。見つけると、一年働いた分でお参りや奉納をするんだそうです。スピリチュアルな淋しさからシャーマニズムに何かを求めるといふ動きが世界中にあります、向かえる場所がまだあるのが日本独特の豊かさです。日本は昔、産業の輸出で世界を支配したといわれ、でも今は誰もが日本のマンガを崇拜しています。まず国内で解決しないといけないけど、オリンピックがせつかくある中で、もう一度日本人自身が世界に伝える舞台に立つんですよ、7年後。

小泉 オリンピックで感心したのは2006年のトリノね。開会式に世界平和に貢献している女性たちが旗を持って、オノ・ヨーコが平和のメッセージを読み上げたでしょう。今度の日本のオリンピックのメッセージとしては平和憲法を前面に出すべき。これこそ世界に向けて重要な理念。だけどやらないのね、

真矢 それこそ知恵のデザインです。

小泉 だけど、どんどんそれをやめようとしているわけですから、7年後どうなるか知りませんが。私は生活の原点に戻って、一日の生活を手でやった自分です。自分でやったりすることを取り戻さないといけないと思います。

ディスカッション

マニグリエ・真矢 私は知恵をデザインすることが大事かと思いました。私がやっている「マヤゴノミ」というブランドでは心付け袋を出しています。お金を相手に渡すときにそのままではなく、包んで渡すというのは日本の古き良き習慣だと思います。今では「裸でご免ね」という人もいなくなりそうです。ツールのデザインが時代に合わないんじゃないか。デザインを使って皆が使いたくなるツールにすれば、その習慣が戻ってくるんじゃないか。いらぬものとか飾りとか思いがちかもしれないけど、そこにデザインの機能があるな、と。

皆さんのそれぞれの工夫も教えていただきたいです。質問も含めていただければ。

松本玲子 私は音楽をやっているデザインは全く分からないんですが、先生が今とても将来のことを憂いていらっしやう。『となりのトトロ』という映画に、まさに昭和30年代の暮らしと家が出てきます。その家が愛知万博 [2005] で「サツキとメイの家」として再現されて、たくさんの若い人たちが魅せられた。



移築された今でも人気があるんです。ですから若い世代も何か本能的に魅力を

感じていると思うんです。ただ、どうしていいかが分からない。先生が子どもたちに体験学習させてくださるのがとても有意義だと思いました。

もう一つ、家父長制についていわれました。そこに嫁の問題も加えていただければと思うんです。素晴らしい日本の行事を支えるのは嫁ということなんです。私も築80年の家に住んで、伝統文化に即した生活を嫁としてしたんですけど、お盆などには「死んだ人より生きている人を大事にして」と思ってしまいます。デザインも新しい昭和30年代という視点で見ただけだと、より伝わるんじゃないかと。

小泉和子 それが問題よね。私はデザイナーじゃないので、デザインに話をつなげるのはなかなかできないんですけど、かつての日本の美しい生活文化を支えていたのは家父長制に基づく家族、ということは女性、嫁だったのですね。今でも盆や暮れにみんなが田舎に帰って来ると嫁が大変だと問題になっています。都会から行く方も、娘だと何もしないでわがままを言う。夫の家に行ったら今度は嫁ですからそんなことはできないですが。でも盆暮れと正月に離れている家族が集まるのは良いものです。今はそれを避けてホテルに行っちゃう。これは家族の形が古いままだからです。嫁にだけ負担を追わせるのは間違っている。といって何でも楽ならいいということで、盆暮れもなくしてしまうというのでは人間関

Constitution, as the present government is inclined to change it. I personally hope that people will go back to the basics in living, making things with their own hands as much as possible.

Discussion

MANIGLIER: I think designing wisdom is important. I have created the "Maia Gonomi" (Maia's Favorites) brand to produce and sell small envelopes to give tips or money gifts. It is a good Japanese custom to give money to others in an envelope or wrapped with paper. However, I am afraid that now few people will say, "I'm sorry to give this to you without a wrapping," when handing money unwrapped. I thought if there had been fancy envelopes, people would restore that good habit. We can live without them, but life would be more pleasant if there were good envelopes. It may be a

function of design to restore or to create customs like this. I will welcome your views and comments.

Reiko MATSUMOTO: I specialize in music. The houses and lifestyle in the 30s of the Showa era appeared in animation movies by Hayato Miyazaki, which were very appealing to many young people. They seem to be attracted to that, but they don't know what they should do to follow the lifestyle. Koizumi-san referred to patriarchy, I want to add the issue of the daughters-in-law. It is wives who support family or community events.

KOIZUMI: It is wrong to impose all of the burdens on wives. When daughters and their family members visit the daughter's parent's home in the mid-summer and new-year holidays, it is the wife (mother) who takes care of them. When a son's family returns his parents' home, his wife (daughter-in-law) is supposed to work as a housewife. Today, some families may stay in hotels, and some

係が育ちません。大変なことを全員で負担して行事を続けるのです。行く方も自分でやるとか手伝うとかするし、引き受ける方も全員がやる。

人を泊めることは、重要な人間修行の機会なんです。私たちの子どもの頃は、親戚も友達もよく泊まったものです。自分の家にはない文化をそこで知り、他人と身近に接触することで人間を知る。うちは母の叔母がしょっちゅうずっと泊まっていて、その叔母さんがやかましい人で怒る。他所の人から怒られることがコミュニケーション能力を育てた面があったんです。

兄弟喧嘩もそうです。兄弟が多くてしょっちゅう喧嘩したり、ぶつたり、ぶたれたりする中で、これをすると嫌われるとか、仲良くしなきゃいけないということを身体で覚えていった。今は普通にしていたら子どもが育たないのです。負荷をかけないといけない。働かせたり社会活動に参加させたり、人に役に立つことに参加させたり。それには親もしないといけない。昔はそういうことが自然に周りにあったけど、今は積極的にやって、どう改善したら良いかを考える必要がある。

とにかく人間にとって何らかの負荷は必要です。私はもすぐ80才です。何もやらないでいたらボケてしまう。苦勞や困難があったら喜ぶことにしているんです。私を育ててくれるんだと思うことにしています。

真矢 事務所の設計を考える人と話をしたときに出たキーワードですが、日本人はグループに帰属する、フランス人は参加する、と。すごく違うんです。日本人は会のために会員があるとなりがち。そこから自分の行動を変えていけたらと思います。今は他人の子どもを叱ると訴えられるので気をつけないといけません。シルバーシートができたのも、家にはもう年寄りの方がいないから席を譲る機会がない。共同生活の苦勞をどう楽しみに変えられるのが工夫で、日本の方の元々得意な分野だと思います。

小泉 共同生活と集団主義はよく腑分けしないとね。

真矢 そう思っている人たちが、意図的に活動して機会を得ないと変わらないと思います。

小泉 そう。うちの近所は昔は付き合いをしていたけど、最近は代替わりしてつきあいがまったくない。大震災が起こってこれじゃいけないと思ったの。お茶を飲みながら声を掛けようと思っています。このところ石見で仕事をしていると、石見ではまだ近所付き合いがあるので、「あ、そうだ」と思ったのね。気がついた人がやらなければいけない。熊谷家で女性たちが集まっているでしょ。そこにハニー・ハズバンドというのをつくったのよ。旦那たちを集めて応援団にして地域全体で建物を守っていくという。そうやって意図的につくらないと駄目です。だいたい

日本人はやらないでお任せして文句をいうのよ。政治なんかも。

木村戦太郎 家具デザインをやっています。縁があって2年前からあきる野というところに来ています。新宿から早ければ1時間5分くらいですが、乗り継ぎを考えると2時間近く掛かることもあります。

1年目は非常に忙しくて、今年5月から町会に入ったんですが、すごく喜ば



れたんですね。僕以外は先祖代々そこに住んでいる人たちです。一緒に山に行ったり神社を回ったりするんですが、町会の人たちが孫とかお嫁さんの話もよく知っているんですよ。大通りではあまり挨拶されませんが、裏通りだと知らない人も子どもたちも挨拶するんです。新宿辺りと顔つきが違って、生きてるな、構えていないと感じます。花が咲いてるねと人がいうのを横から覗くと、どんどん話しかけられていいなと思います。今年の夏、秋川を毎日散歩して写真を撮っていると、親たちが子どもを遊ばせているんですね。結構流れが急ですけど、子どもも慣れている。4~5歳の女の子がタモ網で魚を掬おうとしているのを見ると板についているんです。ひ弱な子が少なくない。自然やコミュニティがある中で育つと、お祭りも連帯感があって

refrain from visiting their parental homes to avoid troubling their mothers. It is an important occasion for children (grand children) to develop skills in human relations therefore family members must help their mothers with the housework. Staying with a different family is a good training opportunity for children. When I was a child, we used to stay with our friends' families. I learned the culture of the family which was different from mine. We developed communication skills through interacting with friends' families. Now, families have a small number of children, and many have only one child, so, children have fewer opportunities to develop their communication skills and other basic skills for living. We now have to intentionally provide children with programs and learning opportunities.

MANIGLIER: Children today do not live with their grandparents, so they don't learn that they must care for the elderly, or to give seats

to the elderly in a train.

KOIZUMI: People used to interact with their neighbors, but not now. After the March 11 earthquake, I realized the need for neighborhood interaction. In Iwami, people in the village still interact with their neighbors. As women gathered at the Kumagai Residence, we organized their husbands' group as a supporting group to involve them in maintaining the house.

Sentarō KIMURA: I am engaged in furniture design. I moved to Akiruno city in suburban Tokyo two years ago. Except for my family, the neighborhood people have lived there for generations. They know each other very well. People greet each other when they meet on the roads. Parents have their children play in the river. The current is quite rapid, but children are used to it. They fish with a fishing-net and they are quite good at it. I find them very strong physically, and they acquire knowledge and skills

Voice of Design トークサロン 6
小泉和子さんと2時間

運営がうまくいくんです。都心でどうしたらいいかという難しいですけど。養老孟司さんは、都心に住む人は脳に住んでいると話されますよね。都市では赤ん坊は人になっていかない。体感的にもものに関わらず編集された情報を頭から受け入れるから、知識は増えるけど身に付かないと。ここ1~2年痛感しています。

山田晃三 工業デザインをやっています。これから世の中を変えるのは知恵だといわれると「くそー」という気がしてくるんですね。今日は戦後の話を聞きながら自分の子どもの頃と親父と祖父を思い出していました。祖父は明治生まれですが、洋服屋を始めて何人も使って、祭りには裸になって褌を締めて出ていたんです。ものすごく格好よくて男らしい。親父もそうです。筋肉がちゃんとあったし。大黒柱というのはお金だけではなくていざというときにすがるというイメージです。けれどこれからは知恵だといわれると、もう勝てないな、なんで僕たちは筋肉を失ったんだろうと思います。戦後、これだけ工業製品をつくってきて、実は誇りだったものをなくしてしまった。そろそろ身体の方にシフトしなきゃいけないという気がします。最近の男子を見てどう



思われますか。

真矢 私は、日本男児は格好いいというイメージで日本に来たんです。映画や小説のイメージで。来日したのは25年前で、まだその存在が軸になるという方がいました。どういう理由であれ、今は少ないですよ。カリスマ的な方が経営者にも少なくなった。今の社会はカリスマを求めている。平等の話に戻っちゃうかもしれないけれど、みんな一緒、みんなできる、と思いたかったために全体が下がったというのが現状かと思います。

そこで誰か立たなくちゃいけないんです。起業もそうですし、男性がベジタリアン[草食]でもいいんです。自分の芯、理念を伝えて自信を持っているかということです。褒めない自信を持ってないということが、今の世界では残念ながらあります。男性が女性を怖がっちゃうんですよね。そうすると会社でも女性が役員になる前にくたびれちゃうんです。男性が怖がらないで、対等に一緒にできる社会になったらいいです。ちゃぶ台をひっくり返す親父という時代ではもうないのに、そのシーンだけを男性が欲しがっているように見えます。ちゃぶ台をひっくり返してもその横のことは全然やっていないじゃないですか。一緒にちゃぶ台をつくる態勢になるには、数世代かかると思います。

小泉 今は女の方がしっかりしている

人が多くて、放送局でも編集者でも男の人が来ると困っちゃいます。でも今の男性を育てたのは女性なんですね。男の子の育て方を私たちが分かっていない。昔は強くとか我慢しなさいとか育てるマニュアルがあった。戦後、それがなくなったとき新しいマニュアルがなく、自由にしなくてはとやたらと甘やかす。その一方で競争社会になって、学歴やいい会社とかが目標になった。勉強に価値が集約されてしまつて人間形成が行われない。

それからもう一つ良くないと思うのは、やたらと外見を気にしすぎるんですよ。みんな家事を嫌がるけどお化粧を嫌だという声は出てきませんね。最近は男も美しくなきゃというんでしょう。男は汚くていいというのではないけれど。外見はスタイルだけでなく、社会的評価もあります。学校の勉強や社会的評価に囚われすぎている人が多いと思うの。

もっと人間が生きる上で何が大事かということを考えなくてはいけない。お母さん自身も考える。マスコミに関わる人なら自分たちの将来がどうなるか、これを子どもに与えたら良くないとかを考える。社会への理想、その家が何を目指しているか、これを育てなければ男も女も育たない。女の方は根源的な力があって強いし育つんですけど、男にはそれが無い気がするのね。経済成長に専念して理想とか信念というものを失ったのが私たちの戦後の間

through playing in nature and interacting with community people.
Kozo YAMADA: I am an industrial designer. Listening to your talk, I recalled my grandfather and father. My grandfather ran a tailor shop, and whenever there was a festival at the local shrine, he would go out wearing only a loincloth. So did my father. Their bodies were well-shaped, and heavily muscled. I wonder when and why I and men of my generation have lost muscles. Perhaps it is time for us to shift our interest to our physique.

MANIGLIER: I came to Japan 25 years ago with the image that Japanese men were cool. There were more charismatic leaders in different sectors in society. People have thought that everyone has a chance equally, and while seeking equality, persons with outstanding initiative or leadership have not emerged. Japanese people now seem to be looking for a charismatic leader. Men who have firm beliefs and confidence in communicating them to others

are wanted. There seem to be too many men who do not have confidence in themselves unless they are praised by others. Some men are even afraid of women.

KOIZUMI: It is their mothers who have reared present-day men. Before the war, there was a kind of manual on how to bring up boys to be strong physically and mentally. But after the war, with no standardized manual, women have tended to spoil their children. Meanwhile, Japan became a competitive society and a good educational career to get a good job came to be a goal in rearing children. Obtaining good school results overrode personal character building.

Another thing I am worried about is that young people are too concerned about their appearances including their styles and reputation in society. They should consider what is important for people to live as full members of society. Their mothers should also

違いだったと思うのね。今からでも考えていかないと止めどなく壊れていくと思います。

信念に基づいて仕事をして、社会を考える人。そういう人が今どんどん亡くなっていっています。若い人の中で誰がいるだろうと考えると、例えば作家にしたって評論家だってそういう人があまり出てこないでしょ。生きていく上でもっとも大きな意味を持つ政治的な問題についても何も言わない。そういうふうになっていくことは困る。

佐野邦雄 男性代表という意味ではないんですが、同じ時代を生きてこられた栄久庵さんからお願いします。

栄久庵憲司 簡単に言えば日本は戦争で負けて、漫画の『ブロンディ』とか米軍住宅と白い家電とかが運ばれて、マッカーサーから伝統あるものを禁止された。それを取り戻すのに数十年かかる間に、アメリカの生活が理想になったのが事実です。それが戦後60数年経って顔をもたげ始めたので、小泉さんがいわれるように進んでいないじゃなくて、一日一日進んでいた。ところが今は家電が行き詰まっていて、台所も電気製品の山で、ちょっと将来が難しい。

では誰が考えるのか。正しい生き方について今日は一切いわれていないので、勝手に言わせていただくと、今日は家電の後に何がくるというお話かと思っていました。これこそ知恵の使い

どころで、国民全体で考えなきゃいけない。「物真似の日本人」という戦後の評論が気に食わなかったのですが、アメリカ製の重いメカニズムと重い材料だと戦後の日本の小屋では床が抜けてしまうのです。それを軽く使いやすくするのは大変な発明で、決してアメリカの物真似じゃない。これは生き方を知っていた底力だと感じておりました。

一体、日本はどうなっていくのか、生き残れるのか。オリンピック招致の最終プレゼンテーションは、オリンピック以上に希望に燃える、明るくなるということの力を見せてくれた。小泉さんは同年輩ですけど、どうお思いになったか。私の場合は国家主義というか、喧嘩したら負けるなという方です。喧嘩をしたからには勝たなけりゃ。昔の



話ですが楠木正成も特攻隊もたいへんな個人で、一人で亡くなっていった。これを認めなきゃいけないと思うんです。日本民族が何かしっかりしたものを持たないと国が起き上がらないとして、何が必要なのか。生活の基本、衣食住に探るのが与えられた役割だと思うので、その点あぜ道を都市の道路にしたような東京で、もてなしの心をどう出すかは想像に絶するほど大変。これを7年間でやり遂げなきゃいけないわけです。これからの日本人の生き方を探す、チャレンジして獲得しなきゃならないものが目の前にきている。例えば、選手村から銀座までどうやって行くのか。つまらないところでやるんですから、面白おかしくしなきゃいけない。おそらく選手は、奈良にも京都にも行ってみたい、けれど行き着いた先でどう過ごすのか。未経験の問題なんです。

consider what their families aim at in bringing up their children. In postwar Japan, we have dedicated our efforts to economic growth, putting aside our ideals and beliefs. We must redirect our attention to these things.

Kenji EKUAN: After Japan was defeated in WWII, General MacArthur of the Allied Forces banned Japan's traditional things. Influenced by movies, we developed admiration for American style living. Japanese electric manufacturers began to produce washing machines, refrigerators and so on. At the beginning, Japanese products were criticized as simply being imitations of American products. I felt disgusted to hear that our products were called imitations, because American products were large and heavy and didn't fit small houses in Japan immediately after the war. Designers and engineers worked hard to lighten household appliances. It was a process of invention and innovation in the

household electric appliance industry. Now that the industry has reached maturity, we must look for ways to ensure industrial survival.

The hosting of the Olympics and Paralympics in 2020 gives us a bright hope that this might serve as an engine to enliven our economic and industrial activities.

KOIZUMI: It is true that people in various industries have made great efforts to develop the industries and the economy to what they are today from the devastated conditions after the war. But today, people are more interested in the money game than manufacturing. In the meantime the hollowing out of domestic manufacturing is progressing as manufacturers are transferring their production bases to other countries.

In ancient times, the Japanese remodeled imported things from China to make them more useful. The chest used to transport

Voice of Design トークサロン 6 小泉和子さんと2時間

小泉 戦後デザイナーとしてこられた先生の立場と次元の違う話をしたので答えられないですけど、ものがない中から努力して発展してきたことは確かです。悪いわけではないけど、今や生産ではなくてマネーゲームになっていますよね。産業でも安いところでつくらせて日本は空洞化していく。そういう状況と今のようなお話とはクロスしないんです。

それから科学技術では、ずっと日本は後進国だったわけです。「唐櫃」という脚がついた櫃をご存じですか。名前から中国のものかと思ったら日本の発明なんです。日本は湿気が多いから櫃を下に置くと湿気てしまう。正倉院でも櫃を最初は台に乗せていたけど、やがて櫃に直接、脚をつけてしまった。中国には脚がついたものはほとんどありません。あっても脚の付き方が違い構造的で、日本の場合は素朴で簡単な技術を使ってつくっています。脚をつけたところ、収納具としてだけでなく運搬具としても便利に使えるものとなりました。脚があるため棒で担ぐとすぐに腰が上がるし、地面においても底が汚れない。中世の運搬具はほとんど唐櫃だったわけです。導入したものを上手に応用するのが日本の技術の伝統なんです。

近代になって家電製品でも何でも少なくとも最初は西洋でつくられたものを導入して応用していく。その技術はたしかに日本独自のものですが、それ

を日本人が独創的と誇れるものかどうか。

それからオリンピックに関して、私は何とも言いようがないです。「パンとサーカス」という言葉がありますが、これはサーカスになると思います。ですから、私は反対です。原発の始末もできてないのに、首相は国際的に嘘をついてまで、問題が山積する中で莫大な金を使ってすることかどうか。そういうことで日本人を元気づけてといっても一時的な興奮にしか過ぎない。産業界や土建業者は大歓迎でしょうが、経済効果もカンフル的でしょう。東京がやることはないと思っていました。

真矢 これからの7年間は、渋滞と工事で東京の生活は大変だと思います。政治家は、後で駄目だったとなると、何でこんなことをしたと言われると思います。一番大事なのは、政治任せではなくてそれこそ東京の人たちが、東京を見た方がどう過ごして帰っていけるか、そのときの日本はどうなるかを考えることだと思う。それを東京の人たちだけじゃなく考えていけるといいなと。3.11のときの日本の団結、みんな一緒になって復興される、という期待が海外にはあったんですけど、それがすぐに落ちてしまった。オリンピックはそういうシナジーを起こせたらいいなと思います。

小泉 私は起きないと思います。

真矢 決まった状況の中でやるということは、元々日本人は得意だなと。

小泉 そうですね。設備などはなんだかんだ言いながら必ずやるでしょう。しかし一部の人やマスコミはともかく、オリンピックに前回の時のように都民が情熱を持つということはないと思いますね。

真矢 そこに西洋のコピー、輸入物を持ってこない方がいいと思います。今の日本のもう一つの武器は、私もですけど他にもいる在日外国人。知恵袋として活用すればいいと思います。

佐野 小泉さんは先ほど、苦労があったら喜びなさいといわれました。栄久庵さんも「神よ我に七難を与えたまえ」と言ってきた方です。そこはお二人とも同じでそういう気持ちでみんな頑張ってきたんだなと思いました。ありがとうございました。

小泉和子（こいずみ かずこ） 家具・室内意匠史と生活史の研究者。家具道具室内史学会会長、登録文化財昭和のくらし博物館館長、石見銀山重要文化財熊谷家住宅館長、生活史研究所主宰。1933年東京生まれ。工学博士。元京都女子大学教授。重要文化財建築の家具の復元修復。著書『室内と家具の歴史』『筆筒』『別冊 太陽 和 家具』『TRADITIONAL JAPANESE CHESTS』『イギリスの家具』『船筆筒の研究』『日本の住宅』という実験・風土をデザインした藤井厚二』『占領軍住宅の記録』『道具が語る生活史』『昭和のくらし博物館』『ちゃぶ台の昭和』『洋裁の時代』ほか。2010年には記録映画『昭和の家事』を制作。

マニグリエ・真矢（まにぐりえ・まや） 有限会社エクスプリム代表取締役社長、クリエイティブ・ディレクター。フランス政府対外貿易顧問委員会委員。パリ大学修士課程修了後、1989年来日。セゾングループ、建築事務所等を経て、1994年に独立。日仏の人・文化交流の架け橋となるべく数々のプロ・プロジェクトを手がける傍ら、心から愛する日本文化や和のライフスタイルに関わる活動等にも積極的に取り組んでいる。2010年、パリのエスプリと和の伝統の出会いを提案するブランド「マヤゴノミ」を発足。著書『バリエーションの着物はじめ』（ダイヤモンド社）。

articles is a good example. Our ancestors put legs onto chests to avoid moisture and dirt from the ground. It became easier for two persons to shoulder it using a pole between the legs. So the chest was used as a container and a carrier. In modern times, the Japanese introduced various kinds of articles from the west, and remodeled them to make them more convenient to use. This practice of innovative reform is characteristic of the Japanese, but I wonder if we can boast that the Japanese are creative.

Regarding the Olympics, I am not in favor of hosting them. The nuclear power plant accident has not been settled, and there are lots of problems in Tokyo. How can we spend such an enormous amount of money for the Olympics? You may say that holding the Olympics and Paralympics will encourage the Japanese people, but it would only mean a temporary excitement. Some industrial communities, in particular, the construction community may be

pleased, but I think the Olympics will only give a short term adrenaline shot to our economic activities.

MANIGLIER: One important thing is that people in Tokyo will try to envisage Japan seven years from now, and how the people visiting Tokyo and other parts of Japan will spend their time. I hope that people will show united energy or synergy toward that occasion.

KOIZUMI: Facilities will be improved for sure. But I doubt that people in Tokyo will have the same flame of enthusiasm as they did in 1964.

MANIGLIER: A strong point in Japan now is that there are many foreign residents, including myself. I hope we can offer our ideas and experience to make the Olympics and Paralympics a success, and help foreigners visiting Japan at these occasions.

参加者からの感想

先日のトークサロン「小泉和子さんと2時間」はとても濃い内容で大いに刺激を受け、昼寝をしていた私の脳ミソが活性化して来たような…そんな気分です。

私も家具・インテリア系の仕事柄、小泉さんの業績は知っていましたが、直接お話しを伺うのは初めてでした。

石見銀山での主婦を動員してやり遂げた素晴らしい成果に驚かされ、バブル時代の日本と西欧列強の金の使い方の比較など、淡々と且つ力強い語り口は説得力がありました。さまざまな実践を重ねて体得された骨太の知恵と、世界を概観できる見識をお持ちなのだと思います。

「貧乏文化を洗練してきた日本」には「昭和30年代の暮らし」が合っている、と述べられた上で、そこに戻るのではなく、男女・親子の関係を見直し、個の自立を志向して対等な人間関係をつくらう…などの提案には、大いに共感できました。

私としてはそこに、人と自然の関わりを取り戻すことを加えたいと思いました。

さまざまな学問も技術も、人が自然にまみれて生きる中で気づき、自然から教えられたものが基本だからです。しかしこれらも、過去に戻るのではなく、自然素材の道具を身近に置く、真面目に料理をつくる、自然の一部である人間同士の密接な交流を取り戻すことなどで改善されていくと思います。私があきる野で杉家具を発表したのも、手触りも調湿性も優れた生地仕上げの家具提案を通じ、長所も欠点もある道具とその素材を理解し大事に使い込む生き方・暮らし方が、いま求められていると思ったからです。

その点でも、小泉さんのお話しに“我が意を得たり”と思ったのでした。

アトリエすぎのこ 代表
文化学園大学非常勤講師
木村戦太郎

日常のビジネス・実践の場ではなかなか深く考えることが難しい、こういった考え方や生き方のような根本的な部分について考え、議論をすることは必要であり、とても大切な時間だと思います。

先生のおっしゃられたことすべてを実践することは難しいことですが、普段の仕事や暮らしの中でどこか心に留め置いていたいと思います。

そうすることで、少しでも、素敵な暮らし、素敵な世界に変わっていけると希望を持ちたいと感じた夜でした。

刺激的な時間をどうもありがとうございました。

立原さおり

小泉先生のお話は本当に楽しかったです。また後から色々考えさせられた事でした。有難うございました。

菅原素子

「小泉和子さんと2時間」とても素敵な会でした。女性は強し！ということでしょうか…お年を感じさせない、素晴らしいトークでした。次回もぜひ、と思っております。

山本忠順



Comments from participants

For the Japanese who have refined the culture of the poor, the way of life in the 30s of the Showa period is adequate. Saying so, Koizumi-san proposed that, instead of just restoring the living of that time, we should review gender and parent-child relations and build relations on an equal standing. I totally agree with her suggestion. I would add one thing to her suggestion. That is to restore our relations with nature. Academic studies and techniques were developed by people who were inspired by observing nature or working in nature. I think we can restore our relations with nature by placing tools made of natural materials, cooking fresh materials, and communicating with people. (Sentaro KIMURA, Atelier Suginoko, lecturer at Bunka Gakuen University)

I hardly have time to contemplate on a theme in my working life. But I realize that it is necessary to think and discuss the fundamental themes for our life.

It is very hard to put what Koizumi-san said into practice totally, but I will keep it in mind in my daily life and work. By doing so, I hope I can change my life for the better. Thank you for such an inspiring talk. (Saori TACHIARA)

I enjoyed the talk session. Koizumi-san's presentation made me think about many things. (Motoko SUGAWARA)

The talk session was a wonderful time. I affirmed that women are strong. I could hardly tell her age from the way she talked. I hope to be able to listen to her again. (Tadayuki YAMAMOTO)

事務局から

理事会開催

2013年11月8日(金)日仏会館にて2013年度第2回理事会を開催しました。

主な議題は、トークサロンの今後と新規プロジェクト、および広報活動について。トークサロンでは、2011年から6回に渡って開催した「今の共有」シリーズは次回をもって終了とし、今後は新たな運営体制による継続を検討しました。新規プロジェクトでは、森口将之理事より、デザインの具体的な情報交換や提案を目的とした場づくりが提起され、2014年春の開催を目処に検討することとなりました。広報活動では、ホームページ・Facebook・機関誌それぞれの特性をいかした情報提供の推進が検討されました。

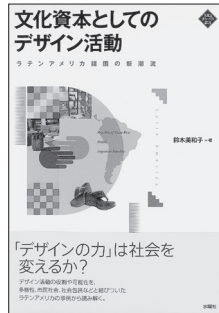


会員の出版物のご案内

日本デザイン機構の会員は、多方面に渡って活動を展開されています。その中で、近年発表された著作活動を紹介します。

- 水野誠一著『愚者の箱』（電子書籍、あの出版、2013年）
- 鈴木美和子著『文化資本としてのデザイン活動：ラテンアメリカ諸国の新潮流』（水曜社、2013年（写真））

- 谷口正和著『群生する個性』『七つの泡』（いずれもジャパンライフデザインシステムズ、2013年）



第7回 Voice of Design トークサロン

3月20日(木)、第7回となる Voice of Design トークサロン「犬養智子さんと2時間」を開催します。会場は日仏会館会議室501(東京 恵比寿)。個人の視点を持ち、はっきりと主張されている犬養さんは、日本の横並びの風潮に疑問を投げかけます。このトークサロンでは、自分の判断で行動し意見を言える「個人」のあり方を討議し、6回を通じて提起されたテーマ「内発性」「個人の自立」への理解をより深めます。

追悼 鈴木博之先生

建築史家の鈴木博之先生(青山学院大学教授)が、2月3日肺炎によりご逝去されました。鈴木先生には昨年4月23日のトークサロンに講師としてご登壇いただきました。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

小泉和子さんは「ものがないと知恵が出る、買うと馬鹿になる」と指摘する。そして「昭和30年代くらいの暮らし方から足る知り、自分で考えてつくり出す生き方」と提案された。不便さや気遣いなどの苦労はあるが、それが人間の感性を育てるし面白い、という言葉には自らが手間をかけたからこそ得られる実感がこもっていた。

従来の快適性や利便性を求める多消費型の生活様式は、環境破壊などの社会問題を生む要因となり、幸福や豊かさの実感にもつながっていない。一方、今デザインで語られる「モノからコトへ」には、小泉さんが言われるような苦労の部分はあまり見えてこない。依然として、快適性や利便性を追求しているかのようだ。デザインには、暮らし方だけではなく、その基本となる生き方への問いがあるのであろう。そこを間違えることなく、実感によって引き出される内発性を考えたい。(南條あゆみ)

VOICE OF DESIGN VOL.19-2

2014年3月7日発行

発行人/栄久庵憲司

編集委員/追田幸雄(委員長) 鳥越けい子、

薄井滋、天内大樹、矢後真由美、

西山誠

南條あゆみ(事務局)

翻訳/林 千根

発行所/日本デザイン機構事務局 〒171-0033

東京都豊島区高田 3-30-14 山愛ビル 2F

印刷所/株式会社高山

VOICE OF DESIGN Vol.19-2

Issued: March. 7. 2014

Published by Japan Institute of Design

3-30-14 Takada, Toshima-ku, Tokyo 171-0033 Japan

Phone: 81-3-5958-2155 Fax: 81-3-5958-2156

Publisher: Kenji EKUAN

Chief Editor: Yukio SAKODA / Translator: Chie HAYASHI

Printed by Takayama inc.

日本デザイン機構は法人会員 株式会社GKデザイン機構、ヤマハ発動機株式会社と個人会員によって支えられています。

From the Secretariat

The second meeting of the Board of Directors was held on November 8, 2013. They decided that the Talk Salon would be continued with a new staff, that opportunities to exchange design information and proposals would be provided, and that information provision through a website, Facebook and printed Voice of Design would be promoted.

JD members' publications

Seiichi Mizuno, Miwako Suzuki, and Masakazu Taniguchi published their books.

The 7th Voice of Design Talk Salon with Ms. Tomoko INUKAI will be held on March 20. Ms. Inukai poses a question about the Japanese tendency toward following the crowd. She will discuss how "individuals" think, express and act on their own decisions.

Editor's Note

Ms. Kazuko Koizumi says "If there is paucity, you will work out various ways to fill the paucity, but if you have money and are always able to buy what you need, then, you will become reluctant to squeeze out an idea. We should learn from the lifestyle in the 30s of Showa era to be satisfied with what we have at hand and to create what we need out of the things that are available around us. Although there are difficulties with this, it is interesting to do this, as through this process, you can develop your senses." A consumption-oriented lifestyle of seeking comfort and convenience causes environmental and other social problems, but rarely brings happiness and richness to people's life. Today, designers often discuss the need for shifting their focus from "material things to immaterial things." Yet, they still seem to seek comfort and convenience. Designers may have to ask themselves a basic question on their view of life in addition to questioning how they should go about their daily lives. (Ayumi Nanjo)